

病 院 年 報

第 2 号

令和 3 年度 (2021 年度)



医療法人伯鳳会

大阪中央病院

HAKUHOKAI Osaka Central Hospital

目 次

大阪中央病院 2021 年度年報の発刊にあたって	1
伯鳳会グループ理念	2
沿革	3
概要	5
基本診療料施設基準届出状況 特掲診療料施設基準届出状況	7
職員構成	8
組織図	9
各種委員会	10
各部門の活動	
内科	11
消化器内科	14
循環器内科	16
外科	19
整形外科	25
皮膚・形成外科	28
泌尿器科	29
婦人科	31
眼科	34
耳鼻咽喉科	35
放射線科	36
麻酔科	38
リハビリテーション科	39
薬剤部	41
中央検査部	42
臨床工学部	44
栄養部	46
看護局	47
健康管理センター	49
医事課	53

大阪中央病院 2021 年度

年報の発刊にあたって



院長 根津 理一郎

2021 年度は伯鳳会となって初のフル年度運営となりました。この間、新型コロナウイルス感染症の影響は依然として継続していましたが、対応策の周知徹底、ワクチン接種の普及、さらには治療薬の市販化により「制御不能」といった感触は薄れ、前年度ほどの受診抑制には至りませんでした。しかしウィズ・コロナの時代となり、今後の医療需要の動向は大きく変化することが想定されます。われわれ医療者は常にこれらを注視し、データに基づいて診療体制を柔軟に再構築していく必要があります。また同時に自身の治療成績を常にレビューし、学術活動等を通じて第三者の批判を受け、成績向上につなげる努力も求められると思います。

本誌は各診療科、各部門からの 1 年間の活動報告、新しい取り組み、今後の目標などを集積し、これらを職員全員で共有することを目的として年に 1 度刊行され、今回は伯鳳会グループに加入して第 2 号となりました。

本誌を手にしていただいた皆さまには、お時間の許すときにご高覧いただき、ご批判、ご意見をいただければ幸いです。

伯鳳会グループ理念

『平等医療・平等介護』

- 1、我々は健康サービスの水準を高く保ち、いつも最新の健康サービスが提供できるよう研鑽し、最良の設備、環境を整えます。
- 2、我々はお客様に愛情と尊敬を持って接し、お客様にとって何が最良かを一緒に考え実践します。
- 3、我々は地域社会に安心を提供し、いつも親近感のわく、あたたかい健康サービスを行います。
- 4、我々は他の健康サービスを行う方々と連携し、地域の方々の健康と生活を守ります。
- 5、我々は健康サービスを通じて自己実現を図り、もって多大なる社会貢献を果たすと共に、自らも幸福となります。

沿革

昭和 19 年 10 月 1 日	大同生命保険相互会社直営の「大同病院」(昭和 3 年開設)を継承し、 「健康保険組合連合会 大阪中央病院」と改称 内・外・産婦人・耳鼻咽喉・小児・眼・放射線の各科 110 床で開設 初代院長 松岡武次郎
昭和 21 年 11 月	院長 林 茂雄
昭和 24 年 3 月	皮膚科・泌尿器科・歯科新設
昭和 29 年 8 月	病床数変更 110 床から 120 床へ
昭和 30 年 9 月	附属准看護婦学校設立許可(校長 林 茂雄院長兼務)
昭和 33 年 9 月	総合病院承認
昭和 34 年 4 月	短期人間ドック(1泊2日方式)実施病院指定(2床)
昭和 36 年 3 月	北館(地上4階 塔屋1階・地下1階 4337 m ²)建設
昭和 36 年 5 月	病床数変更 120 床から 312 床へ
昭和 39 年 10 月	産科センター完成(ベビーベッド13床)
昭和 48 年 3 月	整形外科新設
昭和 50 年 3 月	手術棟改築(北館5階建設)
昭和 51 年 2 月	中央材料室、病理検査室、消毒、洗濯室完成
昭和 54 年 2 月	南館6階完工、中央検査室移転
昭和 54 年 3 月	南館5階に人間ドック棟完成、5床から12床へ
昭和 55 年 10 月	増改築に伴う病床数変更 312床から290床(人間ドック12床含)
昭和 60 年 4 月	院長 戸田良郎
平成 3 年 4 月	院長 榎本 巧 総合健康管理センターを開設
平成 6 年 8 月	産婦人科(産科閉鎖、婦人科のみとする) 小児科閉鎖
平成 8 年 5 月	院長 正岡 昭
平成 9 年 8 月	新病院開設許可 基本設計完了
平成 9 年 9 月	新病院工事着工
平成 11 年 4 月	地域医療連絡室設置
平成 12 年 3 月 1 日	新病院定礎式
平成 12 年 6 月 5 日	健康保険組合連合会 大阪中央病院 開院 (大阪市北区梅田3丁目3番30号 地上13階・地下2階 塔屋2階 駐車場77台) 5病棟、病床数232床、手術室4室 診療科目 内科・消化器内科・循環器内科・外科・整形外科 皮膚 形成外科・泌尿器科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科 麻酔科 全12科

平成 12 年 8 月	一般病棟 I 群 入院基本料 2
平成 14 年 4 月	健康管理センター 日本総合健診医学会優良施設認定
平成 14 年 5 月	院長 大橋秀一
平成 14 年 10 月	病床数変更 232 床から 227 床へ
平成 16 年 7 月	DPC 試行的適用病院として包括評価算定方式導入
平成 16 年 10 月	日本医療機能評価機構認定 (Ver4.0)
平成 17 年 10 月 1 日	創立 60 周年記念式典
平成 19 年 2 月	一般病棟入院基本料 10 対 1 から 7 対 1 へ 病床数変更 227 床から 181 床へ
平成 19 年 4 月	新健診センター開所記念式典・内覧会
平成 21 年 10 月	日本医療機能評価機構認定 (Ver. 6.0)
平成 23 年 1 月	病院基幹システム・健診システム入替
平成 25 年 5 月	9 階病棟および 6・8 階改修 (健診フロアへ) 病床数変更 181 床から 143 床へ
平成 25 年 6 月	泌尿器科 ロボット支援手術装置ダヴィンチ導入
平成 26 年 4 月	診療録管理体制加算 1
平成 26 年 7 月	医師事務作業補助体制加算 1 健康管理センター 人間ドック健診施設機能評価認定
平成 27 年 7 月	外科に肛門外科 新設
令和元年 10 月 1 日	創立 75 周年記念式典
令和 2 年 4 月	院長 根津理一郎
令和 2 年 7 月 1 日	健康保険組合連合会から医療法人 伯鳳会へ事業譲渡 理事長 古城資久
令和 3 年 1 月	整形外科関節手術 Mako (メイコー) ロボティックアーム導入
令和 3 年 2 月	電子カルテ導入 (ソフトウェアサービス)
令和 3 年 4 月	地域連携・入退院支援センター(周術期管理センター(ペリオ)) 開設 麻酔科外来開始
令和 4 年 3 月	放射線科 CT、MRI 更新入替

概 要

(1) 名 称	医療法人伯鳳会 大阪中央病院
(2) 所 在 地	大阪府大阪市北区梅田 3 丁目 3 番 30 号
(3) 開 設 者	医療法人伯鳳会 理事長 古城 資久
(4) 管 理 者	病院長 根津 理一郎
(5) 開 設 年 月 日	令和 2 年 7 月 1 日
(6) 敷 地 面 積	2,528.64 m ²
(7) 建 設 面 積	1,632.55 m ²
(8) 延 床 面 積	22,856,831 m ²
(9) 構 造	S 造、SRC 造、RC 造 地上 13 階・地下 2 階・塔屋 2 階
(10) 施 設	内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、 皮膚・形成外科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、 放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、脳神経外科、 全 14 科 病棟数 3 病棟 病床数 143 床 病室 特室 1 室・個室 30 室・二人室 3 室・三人室 6 室 四人室 21 室・重症室 (2 人) 2 室
(11) 施 設 基 準	一般病棟入院基本料 (急性期一般入院料 1) 入院時食事療養 (I)
(12) 駐 車 場	39 台
(13) 病院施設認定一覧	<ul style="list-style-type: none">・日本消化器病学会専門医制度認定施設・日本肝臓病学会認定施設・日本循環器研修・関連施設・日本外科学会外科専門医制度修練施設・日本消化器外科学会専門医修練施設・日本消化器内視鏡学会認定施設・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設・日本大腸肛門病学会認定施設・日本がん治療認定医機構認定研修施設・日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設・臨床肛門病技能認定施設・日本整形外科学会専門医制度修練施設・日本産科婦人科学会専門研修連携施設・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設・日本泌尿器科学会専門医教育施設・下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設

- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本総合健診医学会専門医研修施設
- ・人間ドック健診施設機能評価認定施設
- ・大阪国際がんセンター連携登録医療機関

基本診療料施設基準届出状況

施設基準名	
1	一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）
2	診療録管理体制加算1
3	医師事務作業補助体制加算1（20対1）
4	急性期看護補助体制加算（25対1）（看護補助者5割未満）
5	看護職員夜間配置加算（12対1 配置加算1）
6	療養環境加算
7	重症者等療養環境特別加算
8	医療安全対策加算2・医療安全対策地域連携加算2
9	感染防止対策加算2
10	後発医薬品使用体制加算1
11	病棟薬剤業務実施加算1
12	データ提出加算（データ提出加算2・ロ・提出データ評価加算）
13	認知症ケア加算（加算3）
15	入退院支援加算（加算2）・入院時支援加算
16	せん妄ハイリスク患者ケア加算
食	入院時食事療養/生活療養（I）

特掲診療料施設基準届出状況

施設基準名	
1	婦人科特定疾患治療管理料
2	ニコチン依存症管理料
3	がん治療連携指導料
4	薬剤管理指導料
5	医療機器安全管理料1
6	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
7	検体検査管理加算（I）
8	検体検査管理加算（II）
9	ロービジョン検査判断料
10	コンタクトレンズ検査料1
11	画像診断管理加算1
12	画像診断管理加算2
13	CT撮影及びMR I撮影
14	冠動脈CT撮影加算
15	心臓MR I撮影加算
16	乳房MR I撮影加算
17	無菌製剤処理料
18	運動器リハビリテーション料（I）
19	呼吸器リハビリテーション料（II）
20	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
21	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
22	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
23	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
24	腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術等
25	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
26	膀胱水圧拡張術
27	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
28	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
29	人工尿道括約筋植込・置換術
30	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
31	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
32	腹腔鏡下仙骨膿固定術
33	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
34	麻酔管理料（I）

職 員 構 成

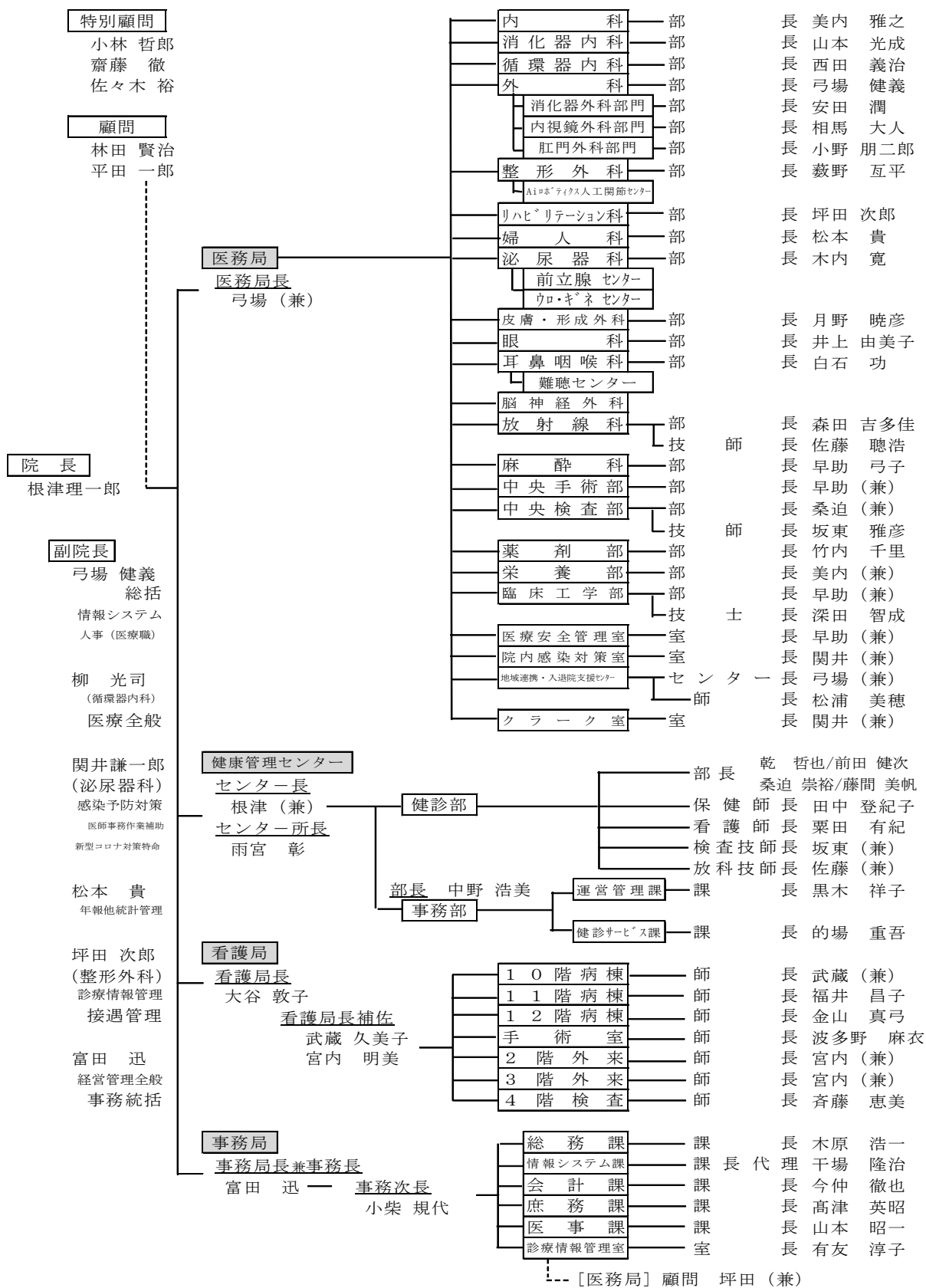
令和4年4月1日現在

区 分		正 規							準 職 員					非 常 勤		計	
		医師	正看	准看	保健	看助	医技	洗淨	事務	医師	正看	医技	洗淨	事務	医師		医技
診 療 部 門	内 科	2													7		9
	消 化 器 内 科	4								1					3		8
	循 環 器 内 科	3													3		6
	外 科	9													2		11
	整 形 外 科	3													4		7
	婦 人 科	4													3		7
	皮 膚 ・ 形 成 外 科	1													1		2
	泌 尿 器 科	4															4
	耳 鼻 咽 喉 科	1					1								5		7
	眼 科	1					2								5	3	11
	放 射 線 科	1					18								5		24
	麻 酔 科	4															4
	リハビリテーション科	(1)					6										6
	薬 剤 部						9		1								10
	中 央 検 査 部	(1)					31					8			4		43
	臨 床 工 学 部	(1)					3										3
栄 養 部	(1)					3										3	
地域連携入退院支援センター	(1)	3				1		3								7	
健 管 C	健 診 部	9	8		6			3		4	14	1	4		34	4	87
	事 務 部								49					4			53
看 護 部 門	看 護 局 長		1														1
	看 護 局 長 補 佐		2														2
	外 来		36			6					1						43
	中央手術部(中材含む)		16					5									21
	10 階 病 棟		21				2										23
	11 階 病 棟		27				2										29
12 階 病 棟		28	1			2										31	
事 務 部 門	事 務 局 長								1								1
	事 務 次 長								1								1
	総 務 課								5				2				7
	会 計 課								2								2
	庶 務 課								2				3				5
	情 報 シ ス テ ム 課								2								2
	診 療 情 報 管 理 室								2								2
	医 事 課								23								23
ク ラ ー ク 室								10								10	
計		46	142	1	6	12	74	8	101	5	15	9	4	9	76	7	515

※()は兼務のため合計に含めず

組織図

令和4年4月1日現在



各種委員会

- (1) 労働安全衛生委員会
- (2) 院内感染防止対策委員会
- (3) 感染対策部委員会
- (4) 業務改善委員会
- (5) 薬事委員会
- (6) 治験審査委員会
- (7) 栄養委員会
- (8) 輸血療法委員会
- (9) DPC 検討委員会
- (10) 医療ガス安全・管理委員会
- (11) 中央手術部委員会
- (12) 診療情報管理委員会
- (13) 広報委員会
- (14) 医療安全委員会
- (15) 情報システム委員会
- (16) Re アクション委員会
- (17) 医療倫理委員会
- (18) 年報編集委員会
- (19) 褥瘡対策委員会
- (20) 図書運営委員会
- (21) 福利厚生委員会
- (22) 外来・病床運営委員会
- (23) 個人情報保護委員会
- (24) 教育・研修委員会
- (25) レセプト審査委員会
- (26) 臨床検査適正化委員会
- (27) 職員食堂委員会
- (28) 接遇委員会
- (29) 勤務医（その他）負担軽減委員会
- (30) 医療放射線管理委員会
- (31) 機器購入委員会
- (32) 化学療法レジメン運営委員会
- (33) クリニカルパス委員会
- (34) 防災対策委員会
- (35) ハラスメント委員会

内科

1. 概要

『 当科の方針と特徴 』

常勤医 2 名と非常勤医 6 名（計 糖尿病専門医師 4 名含む）で糖尿病とその合併症の精査加療および疾患管理、肥満・メタボリック症候群（MetS）、脂質異常症、脂肪肝（他の肝障害を含）、高尿酸血症、甲状腺疾患、高血圧、貧血、呼吸器疾患の外来診療を主として行なっております。特に糖尿病および代謝疾患の管理は最新の治療薬剤や専門デバイスを用いて行なっており、コメディカルスタッフ（糖尿病療養指導士 4 名、糖尿病認定看護師 1 名）と協同し、比較的良好かつ良質な疾患管理を行なっております。また、当院検診センターとの医療連携も強固であり、本年度も多くの患者往来がみられました。2021 年度からは呼吸器内科外来の拡充も行い、主に慢性気管支炎を中心とした外来フォローや健診からの胸部画像異常の再検査なども行なっております。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）や有症状（発熱、呼吸器症状、全身倦怠感など）の外来対応にも内科医として協力しております。内科外来部門では非常に厳しい閾値をもって通常外来とのゾーニングを行っており、安全かつ強力な診療体制の確保を心がけております。

『 2022 年度の目標 』

2022 年度も引き続き現状を維持しつつ疾患管理の質の向上に努めてまいります。

2. 診療実績

定期外来通院フォロー患者数：4,808 名（おおよそ 2～3 ヶ月間隔で外来フォロー中です）

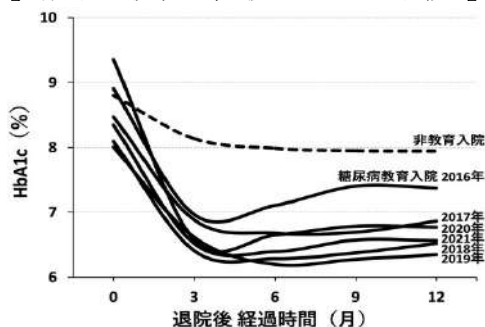
有症状の外来対応：178 名

糖尿病 平均 60.6 歳	糖尿病腎症	肥満症 (MetS 含)	脂質異常症	高尿酸血症	甲状腺	貧血	呼吸器
1,835 名 (1 型 46 名)	797 名	486 名	1,952 名	750 名	409 名	348 名	458 名

[平均 HbA1c 7.2±1.3%]

糖尿病などの生活習慣病では、初期の治療介入が非常に重要であるという概念に基づき、当科では約 1 週間（5 泊 6 日）の糖尿病教育入院や血糖コントロール不良症例への入院精査加療を積極的に実施しています。特に糖尿病教育入院は 2017 年から内容の強化を年々図っており、退院後

【 糖尿病教育入院後の HbA1c 推移 】



約 1 年間は学会推奨の HbA1c < 7% を維持できるようになっております。2020 年～は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、退院後の生活習慣の適正化に苦しみましたが、治療薬強化の適正化やクリニカルイナーシャ（治療の停滞）の是正検討などを交えて、当科での治療内容のレベルアップに糖尿病チームとして取り組んでいます。2022 年も引き続き更なるサービス向上に努めます。

3. 業績

【学会発表】

1. 片山弥生、岡田美織、武内真有、山木香名、明神真希子、南 雄三、美内雅之
糖尿病患者における食事内容と体組成との関連性の検討. 第 23 回 日本病態栄養学会年次学術集会. 2020 年 1 月 24 日～1 月 26 日. 国立京都国際会議場 (京都府) .
2. M Miuchi, A Hatano, M Takeuchi, M Okada, Y Katayama, S Tsuruoka, C Takeuchi.
Moderate-intensity activity may reduce both the body fat composition and pancreatic glucagon secretion in type 2 diabetes. 56th Annual Meeting of European Association for the Study of Diabetes (EASD). 2020 年 9 月 21 日～25 日. Vienna (Austria).
3. 美内雅之、山木香名、明神真希子、武内真有、片山弥生、岡田美織、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、南 雄三. 持効溶解型インスリン注射薬と少量 GLP-1 受容体作動薬の併用療法の有用性の検討. 第 63 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2020 年 10 月 5 日～16 日. 琵琶湖大津プリンスホテル (滋賀県) .
4. 片山弥生、岡田美織、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、山木香名、明神真希子、武内真有、波多野晃弘、南 雄三、美内雅之. 摂取栄養素の変化と臨床データとの関連性の検討
第 63 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2020 年 10 月 5 日～16 日. 琵琶湖大津プリンスホテル(滋賀県) .
5. 鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、片山弥生、岡田美織、武内真有、明神真希子、山木香名、南 雄三、美内雅之. 糖尿病治療薬剤の投与状況からみた Clinical inertia ～その後の観察検討 (約 4 年間) ～. 第 63 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2020 年 10 月 5 日～16 日. 琵琶湖大津プリンスホテル (滋賀県) .
6. 鶴岡早央里、北川克美、長田志織、竹内千里、天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生、波多野晃弘、武内真有、井上智香子、明神真希子、南 雄三、美内雅之. Clinical inertia の許容範囲の検討 ～2 度の見逃しは HbA1c を悪化させる～. 第 64 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2021 年 5 月 20 日～22 日. 石川県立音楽堂 (石川県) .
7. 片山弥生、岡田美織、天王寺谷彩奈、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、平野弘臣、武内真有、山木香名、明神真希子、波多野晃弘、南 雄三、美内雅之. COVID-19 治癒後の 2 次性サルコペニアの栄養サポート. 第 24 回・第 25 回 日本病態栄養学会年次学術集会. 2022 年 1 月 28 日～30 日. 国立京都国際会館 (京都) .

【原著論文】

1. Saori Tsuruoka, Chisato Takeuchi, Ayana Tennoujiya, Miori Okada, Yayoi Katayama, Akihiro Hatano, Masayuki Miuchi. Clinical inertia in the medical care for patients with diabetes mellitus. J Jpn Soc Hosp Pharm. 58(4):389-394., 2022.

【雑誌原稿】

1. 美内雅之、小池眞一郎. 大阪中央病院糖尿病協会「つばき会」～つばきに添える考察～. 大阪糖尿病協会会報誌. 9., 2021.
2. 美内雅之. 生活習慣病の治療介入開始はお早めに!. 「虹」6(11)., 2021.

【学会受賞】

1. 美内雅之. Chat で質問賞/JDS Award. 第 64 会 日本糖尿病学会年次学術集会. 2021 年 5 月 20～22 日. 石川県立音楽堂 (石川県).
2. 美内雅之、天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生 (DeM support team, DST) . レンピコンテスト奨励賞 (優秀賞) . 第 24 回・第 25 回 日本病態栄養学会年次学術集会. 2022 年 1 月 28 日～30 日. 国立京都国際会館 (京都).

消化器内科

1. 概要

消化器内科は、日本消化器病学会の認定施設（指導施設）、日本消化器内視鏡学会の指導施設、日本消化器内視鏡学会 JED project 参加施設など学会からの認定を受けています。医師スタッフは、特別顧問1名・医長2名・医員1名（育休中）であり、上部・下部の内視鏡診断・治療、消化器内科疾患（上下部消化管の腫瘍、IBD、ピロリ感染症、GERDなど）の診療に携わっています。また、当院健診センターの上部内視鏡検査、胃透視読影などの応援もあわせて行っています。その他、消化管 X 線造影、CT colonography、MR enterography、カプセル内視鏡などの検査も随時行っています。

『当科の方針と特徴』

当院は、健診受検者が非常に多いため、そこから多くの2次健診（いわゆる精密検査）依頼を受け診療業務を行っているのが、特徴である。主には、上部および下部消化管疾患（癌、ポリープ、ヘリコバクターピロリ感染症）、肝胆膵疾患（膵嚢胞性疾患、胆石、肝炎）などの患者さんの診療に当たっている。また、当院の肛門外科には多くのIBD患者（クローン病、潰瘍性大腸炎）が受診されているため、肛門外科と連携しながら、診断やバイオ剤の導入などの治療を行っている。

『診療日程』

	室	月		火		水		木		金		土 第2・4週 午前
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
消化器内科	1	岡本佳子 【消化器内科】		山本光成 【消化器内科】		平田一郎 【消化器内科】		平田一郎 【消化器内科】		山本光成 【消化器内科】 8日～		
	5	大家 学 【消化器内科】										交代

『2022年度の目標』

昨年度はスタッフの減員、新型コロナウイルスの蔓延などもあり十分な診療を行うことが困難であった。2022年度は、with corona の状況であるが、消化器内科スタッフの充実を図り、コロナ感染に注意しながら、内視鏡検査や診療機能の充実をはかり入院患者を増やすことに務める。

2. 診療実績

	2020年度	2021年度
外来患者総数	7,721	6,933
入院患者総数	1,081	621
内視鏡件数	2,476件	2,304件
上部消化管	1,309件 (ESD 8件, EMR 1件, 異物除去 1件)	1,260件
下部消化管	1,167件 (EMR 325件)	1,044件 (EMR 299件)

3. 業績

【論文・著書・寄稿】

1. 平田一郎：全身性悪性リンパ腫の消化管続発病変の特徴. 消化器内視鏡 33：839-847, 2021
2. 平田一郎：大腸Ⅱc研究会30周年に寄せて. 第30回大腸Ⅱc研究会・抄録集 p.75, 2021

【学会・研究会・座長・司会】

1. 大宮直木, 平田一郎：パネルディスカッション「小腸の希少疾患を考える-腸管気腫症の全国多施設共同疫学調査」：第59回日本小腸学会学術集会；2021年11月27日；東京都江東区
2. 平田一郎：座長「講演：クローン病における肛門部瘻孔病変の診断と治療」：日本消化器病学会近畿支部第115回例会；2021年9月18日；大阪市
3. 平田一郎, 齊藤 徹：司会「基調講演, パネルディスカッション：肛門病変を有するクローン病へのアプローチ-内科医と肛門外科医の連携-」；2021年7月31日；大阪市

循環器内科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

当科の方針でありかつ特徴は、『明るく・楽しく・親切』をモットーとし迅速で安全な医療を行うことです。外来診療ではできる検査(各種エコー検査、負荷心電図やホルター心電図等)は可能な限り当日中に行い、入院診療では短期間の入院となるように努めております。当科では、虚血性心疾患、心不全、心臓弁膜症、不整脈、末梢動脈疾患、生活習慣病、家族性高コレステロール血症および静脈血栓症等の診断と治療を行っています。症状、心疾患の家族歴、冠危険因子、心・頸動脈エコー及び負荷心電図の結果をもとに、虚血性心疾患が疑わしければ冠動脈 CT(急性冠症候群等では省略)を施行します。冠動脈 CT 上有意狭窄が疑われれば、入院して頂き冠動脈造影検査を施行します。造影上有意狭窄があれば、当院ではほぼ全例血管内エコーを使い PCI を行います。ここ最近では年間 200-250 例の PCI を行い、死亡・脳梗塞・緊急手術といった重篤な合併症はありません。発作性上室性頻拍、心房粗動、心室頻拍等の頻脈性不整脈及び心房細動に対しては、関西労災病院の増田正晴先生が当院にてアブレーション治療を行っています。年間 90-100 例を治療しています。徐脈性不整脈(洞不全症候群、房室ブロック、徐脈性心房細動)に対しては、ペースメーカー植え込み術を施行しています。糖尿病や高齢者の増加に伴い末梢動脈疾患も増加しております。当科では主に腸骨～大腿動脈病変に対する経皮的動脈形成術(PTA)を年間 20-25 例施行しております。動脈硬化性疾患は、高血圧・脂質異常症・糖尿病・喫煙・内臓蓄積型肥満症などの生活習慣病を基盤として発症するため、各々の因子をコントロールすることが重要です。当院では、当院糖尿病内科・栄養部や大阪大学研究グループと連携を密に保ち生活習慣病の予防・加療に努めております。家族性高コレステロール血症(FH)は、LDL 受容体関連遺伝子の変異による常染色体優性遺伝する疾患です。FH ヘテロ接合体患者は 500 人に 1 人以上、ホモ接合体患者は 100 万人に 1 人以上の頻度で認められ、わが国における FH 患者総数は 25 万人以上と推定されています。ホモ接合体患者と一部の重症ヘテロ接合体患者は、内服加療だけでは LDL-コレステロールをコントロールできません。長期予後改善のためには、透析に似た回路を使い血中の LDL を吸着する LDL-アフェレーシスが必須です。当院は梅田にあり交通の便が良いため、大阪大学や国立循環器研究病センターから御紹介頂いた患者さんの LDL-アフェレーシスを施行しています。深部静脈血栓症は、エコノミークラス症候群の認知と共にその病因として広く知られるようになりました。当科では肺塞栓症症例、心肺機能が低下している深部静脈血栓症症例、血栓形成ハイリスク疾患で ADL 改善が期待できない症例、肺塞栓を起こすリスクの高い大腿静脈から腸骨静脈の大きな血栓に対して、一時的もしくは永久的に下大静脈フィルターを留置し血栓溶解療法を施行しています。

『スタッフ』

副院長：柳光司 部長：西田義治 医長：西尾宗高
非常勤医師：増田正晴(関西労災病院・不整脈)、他 2 名

『診療日程』

	室	月		火		水		木		金		土
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	第2・4週 午前
循環器 内科	3	柳 光司 【循環器内科】		柳 光司 【循環器内科】		柳 光司 【循環器内科】		梁 美和 【循環器内科】	梁 美和 【循環器内科】 (禁煙外来) ※禁煙外来は予約のみ 診察13:30から	柳 光司 【循環器内科】		
	5			宮脇 大 【循環器内科】								
	6	西尾宗高 【循環器内科】		西田義治 【循環器内科】		西尾宗高 【循環器内科】		西田義治 【循環器内科】		西田義治 【循環器内科】		

『2022年の目標』

COVID-19のため大変な世の中ですが、可能な範囲で迅速で安全な医療を最大限に行う。

2. 診療実績

	2020年(1月～12月)	2021年(1月～12月)
年間外来患者数	21,576人	21,650人
年間初診患者数	320人	273人
年間入院患者数	1,165人	1,163人
冠動脈造影検査(PCI等含む)	484例	538例
経皮的冠動脈形成術(PCI)	236例	258例
経皮的動脈形成術(PTA)	20例	17例
経皮的腎動脈形成術(PTRA)	2例	4例
カテーテルアブレーション	94例	70例
ペースメーカー留置術	13例	3例
下大静脈フィルター	6例	8例
心エコー	2,975例	3,413例
経食道エコー	26件	14件
頸動脈エコー	2,651例	2,743例
下肢動脈エコー	295例	299例
下肢静脈エコー	887例	795例
腎動脈エコー	855例	749例
トレッドミル運動負荷心電図	1,555例	1,711例
ホルター心電図	316例	351例
心臓CT	927例	930例

3. 業績

【学会・研究会】

水本拓見, 西尾宗高, 西田義治, 柳光司: 重症 3 枝病変を有する FH ヘテロ接合体症例におけるエボロクマブの有用性, 第 27 回中之島循環器・代謝フォーラム, 2021 年 9 月 11 日, 大阪市

【論文・著書】

Shizuya Yamashita, Hidenori Arai, Hideaki Bujo, Daisaku Masuda, Tohru Ohama, Toshiyuki Ishibashi, Koji Yanagi, Yasuji Doi, Satoshi Nakagawa, Koichi Yamashiro, Kenichiro Tanabe, Toru Kita, Masunori Matsuzaki, Yasushi Saito, Masanori Fukushima and Yuji Matsuzawa on Behalf of the PROSPECTIVE Study Group : Probucol Trial for Secondary Prevention of Atherosclerotic Events in Patients with Coronary Heart Disease (PROSPECTIVE). *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 28(2): 103-123, 2021

外科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

大阪中央病院外科は消化器外科、肛門外科および乳腺・甲状腺外科よりなります。以下、各領域別の方針と特徴について述べます。

<消化器外科>

消化器外科については、根津、弓場、安田、相馬が内視鏡外科手術（90%以上）を中心に手術を行っています。また、内視鏡外科学会技術認定取得者（合格率 30%以下）が 2 名（胃 1 名、胆道 1 名）在籍しています。当科は大阪大学消化器外科の関連病院として連携しています。

- ・胆嚢疾患：胆石症や胆嚢ポリープ・胆嚢腺筋症などに対する腹腔鏡下胆嚢摘出術は、当科で最も施行症例の多い手術で、例年 50～70 例程度に施行しています。さらに総胆管結石症に対しても、ほぼ全例に胆嚢摘出と同時に腹腔鏡下に結石除去を行っています。
- ・食道疾患：当科では腹部食道の良性疾患に力を入れてきました。腹部食道は通常の開腹手術では相当大きく切らないと手術できない部位ですが、腹腔鏡を用いれば比較的容易に術野が展開できるため、腹腔鏡下手術の良い適応と考えられます。食道アカラシアに対する腹腔鏡下手術はこれまでに 36 例に行い、逆流性食道炎、食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下噴門形成術はこれまでに 39 例に行いました。
- ・胃疾患：胃癌に対する腹腔鏡下手術は、当科において積極的に施行しています（腹腔鏡下手術率 90%以上）。とくに当初、早期胃癌のみが適応でしたが、郭清技術の向上にともない、進行胃癌にも適応を広げています。また、以前は体腔外で吻合を行う「腹腔鏡補助下胃切除術」でしたが、2015 年よりはすべて腹腔内で吻合を行う「完全腹腔鏡下胃切除術」を施行しています。さらに早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）も消化器内科において実施しています。
- ・大腸疾患：大腸癌に対しても積極的に腹腔鏡下手術を導入しています。一部の例外（腸閉塞を併発した症例や周辺の臓器に浸潤した腫瘍の症例など）を除いて、殆どの大腸癌症例に腹腔鏡下手術を施行しています。年間 20～30 人程度の大腸癌症例に手術を施行していますが、腹腔鏡下手術の割合は 90%を越えています。また、以前は体腔外で吻合を行う「腹腔鏡補助下結腸切除術」でしたが、2019 年よりはすべて腹腔内で吻合を行う「腹腔鏡下結腸切除術」を施行しています。
- ・難治性の直腸脱（完全直腸脱）症例に対して、より再発が少ないとされる腹腔鏡下直腸固定術を積極的に行っています。2015 年末までに腹腔鏡下直腸後方固定術（Wells 変法）を 47 例に行い、良好な成績でした。さらに 2016 年初めより、より良い成績と低侵襲を目指して、欧米で標準術式とされる腹腔鏡下直腸腹側固定術を導入しました。現在は腹腔鏡下直腸腹側固定術と腹腔鏡下直腸後方固定術を併用し、2022 年 3 月までに合計 317 例に施行し、良好な成績を上げています。
- ・炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）に対しても積極的に腹腔鏡下手術を導入してい

ます。また潰瘍性大腸炎根治手術後の合併症併発例に対するサルベージ手術、クローン病再発例、肛門病変合併例に対する外科治療にも取り組んでおり、良好な成績を収めています。

- ・その他：急性虫垂炎はほぼ全例に、ソケイヘルニアも80%を越えて積極的に腹腔鏡下手術を行っています。

<肛門外科>

肛門疾患については、齋藤を中心に小野、久能、内海が痔核、裂孔、痔瘻、脱肛、直腸脱などの疾患を専門診療、手術しています。

当院の診療の性格（位置づけ）は、大腸肛門病学会認定の肛門専門医・指導医、臨床肛門病学会認定の肛門疾患の技能認定医・指導医が複数勤務する肛門診療の基幹的（紹介型）施設です。すなわち、近畿地方の診療所や病院から診断・治療の難しい肛門疾患の症例や、治療後の経過が思わしくない症例が多数紹介される施設です。

<乳腺・甲状腺外科>

乳腺・甲状腺疾患については、小林と安田を中心として診療しており、当院健診センターとの協力体制で、診断から治療（手術、化学療法など）まで一貫した診療を行っています。

2021年度は、CNBを51症例に施行。内30例が乳がんと診断され、28例を当院乳腺外科で根治手術をしました。検診マンモグラフィの異常所見の中で、微小石灰化病変が指摘される頻度は高く、DCISを示唆する症例を如何に的確に診断するかが問題です。微小石灰化部位を超音波下にCNB生検し組織診断に至りますが、微小石灰化病変は超音波検査では描出されず、いかに該当部位を同定するかが問題となり、Gridを装着したマンモグラムで石灰化部位を同定し、エコー下CNB行う工夫もを行っています。

『スタッフ』

現在(2022年4月1日)の陣容は、根津理一郎院長、弓場健義副院長兼外科部長、小林哲郎特別顧問、齋藤 徹特別顧問、安田 潤消化器外科部長、相馬大人内視鏡外科部長、小野朋二郎肛門外科部長、久能英法医長、内海昌子医員の計9名に、福井玲子（乳腺外科）非常勤医師1名で構成されています。

『診療日程』

	室	月		火		水		木		金		土
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	第2・4週 午前
消化器外科	1	弓場健義	相馬大人 安田 潤 (交代)	根津理一郎	小林哲郎 (乳腺・甲状腺外来) ※予約制	弓場健義	相馬大人			福井 玲子 (乳腺外来) ※予約制	小林哲郎 (乳腺・甲状腺外来) ※予約制	福井 玲子 (第2週) (乳腺外来) (健診予約のみ)
肛門外科	2	齋藤 徹 (肛門外来)	齋藤 徹 (肛門外来)	久能 英法 (肛門外来)		安田 潤	齋藤 徹 (肛門外来)	小野朋二郎 (肛門外来)		小野朋二郎 (肛門外来)	相馬/安田 交代	相馬/安田 交代 (第2・4週) (IC外来)
乳腺外科	3					小野朋二郎 (肛門外来) OP				相馬/安田 交代 OP		
		OP		OP	OP			OP	OP	OP	OP	

『2022年の目標』

消化器外科：本邦トップクラスの肛門外科とタイアップし、完全直腸脱症例に対する腹腔鏡下直腸固定術症例の増加に努め、本邦トップクラスを目指します。また、腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復

術におけるロボット支援の保険収載時に対応できるように準備します。

肛門外科：コロナウイルス感染者の蔓延による受診控えと、紹介元の患者数減少による紹介患者数の減少により、右肩上がりが増加していた手術件数が 2020 年は減少しました。しかし、2021 年には増加しました。コロナウイルスの感染・蔓延は続いています。2022 年は 2021 年の件数を上回ることを目指します。

乳腺・甲状腺外科：微小石灰化病変の診断については、vacum assisted mammotome の導入を検討したいところですが、cost performance を考えるとなかなか導入が難しい。エコー部門の診断 skill up は必須であり、更なる研鑽につとめてゆきたいと考えています。

2. 診療実績

外来患者数	14,445	新入院患者数	1,495	在院患者延数	6,022
初診患者数	2,504	退院患者数	1,516	患者延数	7,538

2017 年～2021 年 主な手術実績（消化器外科）

内訳					
	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
食道裂孔ヘルニア	1	0	1	0	0
胃癌	10	12	10	7	7
結腸・直腸癌	22	27	14	17	16
胆石・胆嚢ポリープ	78	60	51	48	42
総胆管結石症	2	3	3	1	2
ヘルニア	33	31	41	18	26
虫垂炎	3	4	6	3	2
直腸脱	177	180	124	143	133
[うち腹腔鏡下直腸固定術]	[41]	[37]	[46]	[60]	[52]
炎症性腸疾患				1	2
NCD 登録数	1,318	1,517	1,798	1,565	1,594

2017 年～2021 年 主な手術実績（肛門外科）

	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
痔核	475	553	695	517	622
痔瘻	349	436	551	521	561
裂肛・肛門狭窄	43	71	76	67	49
直腸脱・直腸粘膜脱	136	143	78	83	110
その他	65	99	135	168	104
計	1,068	1,302	1,535	1,356	1,446

2017年～2021年 主な手術実績（乳腺・甲状腺外科）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
初回乳癌	23	27	31	27	28

3. 業績

【学会・研究会・座長・司会】

『発表・講演』

1. Yumiba T, Souma Y, Yasuda J, Kuno H, Nishigori H, Miyazaki S, Ieda J, Ono T, Saito T, Nezu R: Functional outcomes following laparoscopic rectopexy for patients with complete rectal prolapse: comprehensive anorectal manometric and scoring assess: 17th IFSES World Congress of Endoscopic Surgery; 2021/11/24-27; Barcelona (Hybrid)
2. 根津理一郎: IBDの外科的アプローチ -手術適応とタイミング-: IBD医療連携勉強会; 2021年3月25日; 大阪市 (Web)
3. 根津理一郎: Biologic Eraにおける潰瘍性大腸炎の外科治療: IBD Biologics Meeting in 神戸; 2021年12月18日; 神戸市 (Hybrid)
4. 斎藤 徹: ALTA 併用療法の名称記載について: 第14回内痔核治療法研究会総会; 2021年9月5日; 東京
5. 斎藤 徹: ALTA 併用療法の名称記載について: 第119回近畿肛門病疾患懇談会; 2021年11月20日; 大阪市
6. 弓場健義、相馬大人、安田潤、久能英法、小野朋二郎、斎藤徹、小林哲郎、根津理一郎: The anal manometric examination and incontinence, constipation in the laparoscopic rectopexy: 第33回日本内視鏡外科学会; 2021年3月10日-13日; 横浜市 (Hybrid)
7. 安田 潤、弓場健義、相馬大人、家田淳司、村山浩之、小野朋二郎、斎藤徹、小林哲郎、根津理一郎: Two cases of laparoscopic low anterior resection for rectal cancer concomitant with rectal prolapse: 第33回日本内視鏡外科学会; 2021年3月10日-13日; 横浜市 (Hybrid)
8. 安田 潤、弓場健義、相馬大人、久能英法、小野朋二郎、斎藤徹、小林哲郎、根津理一郎: 直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術の術式選択: 第76回日本消化器外科学会総会; 2021年7月7日-9日; 京都市 (Hybrid)
9. 安田 潤、弓場健義、相馬大人、久能英法、小野朋二郎、斎藤徹、小林哲郎、根津理一郎: 若年性直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術の手術成績: 第76回日本大腸肛門病学会学術集会; 2021年11月12日-13日; 広島市 (Hybrid)
10. 相馬大人、弓場健義、安田 潤、久能英法、錦織英知、宮崎進、小野朋二郎、斎藤徹、小林哲郎、根津理一郎: Laparoscopic ventral rectopexy for rectal prolapse with previous surgery for POP: 第33回日本内視鏡外科学会; 2021年3月10日-13日; 横浜市 (Hybrid)
11. 相馬大人、弓場健義、安田 潤、久能英法、錦織英知、宮崎進、小野朋二郎、斎藤徹、小林哲郎、根津理一郎: 直腸脱における男性症例に対する腹腔鏡下直腸固定術の手術成績: 第83回日本臨床外科学会総会; 2021年11月18日-20日; 東京都新宿 (Hybrid)

12. 相馬大人、弓場健義、安田 潤、久能英法、小野朋二郎、齋藤徹、小林哲郎、根津理一郎：高度直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術の治療成績：第 34 回日本内視鏡外科学会；2021 年 12 月 2 日-4 日；神戸市
13. 相馬大人、弓場健義、安田 潤、久能英法、小野朋二郎、齋藤徹、小林哲郎、根津理一郎：当院における骨盤臓器脱を伴う完全直腸脱に対する腹腔鏡下手術の工夫：第 76 回日本大腸肛門病学会学術集会；2021 年 11 月 12 日-13 日；広島市 (Hybrid)
14. 小野朋二郎、齋藤徹、久能英法、相馬大人、安田潤、小林哲郎、弓場健義、根津理一郎：直腸脱に対する Delorme 手術の手技と成績：第 76 回日本消化器外科学会総会；2021 年 7 月 7 日-9 日；京都市 (Hybrid)
15. 小野朋二郎、齋藤徹、久能英法、相馬大人、安田潤、小林哲郎、弓場健義、根津理一郎：分離結紮及び直腸粘膜刺通結紮を併用した痔核に対する結紮切除術：第 76 回日本大腸肛門病学会学術集会；2021 年 11 月 12 日-13 日；広島市 (Hybrid)
16. 小野朋二郎、齋藤徹、久能英法、相馬大人、安田潤、小林哲郎、弓場健義、根津理一郎：坐骨直腸窩痔瘻に対する括約筋温存術式：第 4 回日本臨床肛門病学会学術集会；2021 年 3 月 21 日；Web 開催
17. 福田正博、外山 学、星賀正明、弓場健義、澤 芳樹、中尾正俊、高井康之、茂松茂人：令和 2 年度 大阪府医師会生涯研修活動の実態：大阪府医師会医学会総会；2021 年 11 月 7 日；大阪市

『座長・司会』

1. 根津理一郎：内視鏡像から IBD の病態を考える：第 36 回 大阪クローン病治療研究会 (座長)；2021 年 7 月 2 日；大阪市
2. 根津理一郎：クローン病の肛門部瘻孔病変における診断と治療：肛門病変を有するクローン病へのアプローチ (座長)；2021 年 7 月 31 日；大阪市
3. 根津理一郎：亜鉛生物学の新展開-腸管バリア維持機能と下痢：第 22 回日本亜鉛栄養治療研究会学術集会 (座長)；2021 年 8 月 7 日；大阪市
4. 根津理一郎：一般演題：第 19 回 IBD フォーラム (座長)；2021 年 11 月 18 日；神戸市
5. 齋藤 徹：私の歩んだ肛門診療：第 4 回日本臨床肛門病学会学術集会 (司会)；2021 年 3 月 21 日；Web 開催
6. 齋藤 徹：肛門病変を有するクローン病へのアプローチ：内科医と肛門外科医の連携 (司会)；2021 年 7 月 31 日；大阪市
7. 相馬大人：示説 (ポスター) 「胃・悪性疾患」：第 83 回日本臨床外科学会総会 (座長)；2021 年 11 月 18 日-20 日；東京都新宿区

【論文・著書】

1. Yumiba T, Souma Y, Yasuda J, Ieda J, Ono T, Nezu R, Saito T: Laparoscopic ventral rectopexy using the transanal vacuum test for complete rectal prolapse: Surgery Today 2021;51:1246-1250.

2. Yumiba T, Souma Y, Nakajima K, Yasuda J, Ono T, Saito T, Nezu R: Functional outcomes following laparoscopic rectopexy for complete rectal prolapse patients: ventral vs. posterior: Journal of Gastrointestinal Surgery; DOI/10.1007/s11605-022-05271-7
3. Souma Y, Yumiba T, Yasuda J, Ieda J, Miyazaki S, Ono T, Kobayashi T, Saito T, Nezu R: A rare case of biliary peritonitis after colonoscopy without any perforation of the biliary tract: Biomedical Journal of Scientific & Technical Research; 2021 Feb online; DOI 10.26717/BJSTR.2021.33.005423
4. Itabashi M, Ikeuchi H, Kimura H, Fukushima K, Fujii H, Nezu R, Futami K, Sugita A, Suzuki Y, Hisamatsu T: Perioperative venous thromboembolism in ulcerative colitis: A multicenter prospective study in Japan: Crohn's & Colitis 360; 2021;3:1-7.
5. 根津理一郎：クローン病に対する栄養管理の実際．静脈経腸栄養ナビゲーター；エビデンスに基づいた栄養管理（編著 井上善文），照林社 2021;1:456-462.

【講演会・セミナーなど】

『学会長・代表世話人』

1. 齋藤 徹：代表世話人：第14回内痔核治療法研究会総会：「ALTA療法におけるインフォームドコンセント」：2021年9月5日；東京
2. 齋藤 徹：代表世話人：第118回近畿肛門疾患懇談会 テーマ「肛門部腫瘍（痔核を除く）」：2021年7月10日；大阪市 Web 開催
3. 齋藤 徹：代表世話人：第119回近畿肛門疾患懇談会 テーマ「ALTAの併用療法」：2021年11月20日；大阪市 Web 開催
4. 根津理一郎：代表世話人：IBD Clinical Approach Web-Learning Seminar：2021年3月15日
5. 根津理一郎：代表世話人：IBD Clinical Approach Web-Learning Seminar：2021年10月6日
6. 弓場健義：会長：大阪臨床外科医会2020年度後期総会：2021年1月16日；誌上開催
7. 弓場健義：会長：大阪臨床外科医会2021年度前期総会：2021年6月3日；誌上開催

【多施設共同研究への参加・製薬企業からの受託研究】

1. StageⅢ結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法
またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験（JFMC-1202-C3 ACHIEVE Trial）
財団法人がん集学的治療研究財団（2012.8.1～2021.7.31）
2. 直腸脱の手術成績に関する後ろ向き研究 Retrospective Study of Surgical Outcomes for Rectal Prolapse 大阪大学消化器外科共同研究会 大腸疾患分科会（2021年1月～）
3. 厚労省「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」（久松班）project 研究（多施設共同）「潰瘍性大腸炎治療例の予後-QOLの観点から」（2020年6月～）

整形外科

1.概要

『当科の方針と特徴』

当院整形外科では、関節外科、特に膝と股関節の痛みや障害に対する治療を中心に診療を行ってききましたが、さらに肩関節専門医による肩関節の痛みや障害の治療を今年度より開始しています。

膝関節外科では、

- ・ 半月板損傷や靭帯損傷などのスポーツ外傷に対する関節鏡視下手術、
- ・ 関節軟骨損傷に対する鏡視下骨軟骨柱移植術や自家培養軟骨細胞移植術、
- ・ 初期変形性膝関節症対しては変性半月板損傷や関節軟骨障害には関節鏡手術
- ・ 中期変形性膝関節症には骨切り術や片側型人工膝関節置換術
- ・ 末期変形性膝関節症には全人工関節置換術

と病期によって適切な治療を選択して行っています。

股関節外科では、

- ・ 股関節唇損傷や大腿臼蓋インピンジメントに対する関節鏡視下手術、
- ・ 変形性股関節症、関節リウマチや大腿骨頭壊死による進行、末期の股関節障害に対して筋肉を切らずインナーマッスルを温存する前方アプローチによる最小侵襲人工股関節置換術

を行っています。

肩関節外科では

- ・ 腱板断裂に対する関節鏡下手術
- ・ 変形性肩関節症に対する人工関節手術
- ・ 肩関節脱臼の対する関節鏡下手術
- ・ インピンジメント症候群に対する関節鏡下手術
- ・ 拘縮肩に対するリハビリおよび外科的治療

を行っています。

『スタッフ』

副院長・リハビリテーション科部長：坪田 次郎

整形外科顧問：林田 賢治

整形外科部長：藪野 互平

『2022年の目標』

- 人生100年時代を健康に生きる-

人工関節置換術(膝・股)については、2019年以降3D術前プランニングの導入、PSI、ナビゲーションシステムによるコンピューター支援手術を行ってききましたが、2021年1月にストライカー社製の人工関節手術支援ロボットMako SmartRobotics(stryker社)の導入を機にAiロボティクス人工関節センターを開設

しました。Ai ロボティクス人工関節センターでは、Ai を搭載した3D 術前プランニングソフトによる綿密な術前計画を Mako SmartRobotics により正確に再現し、侵襲の少ない安全な手術を行います。

Mako SmartRobotics は従来のナビゲーションシステムをさらに進化させたもので、手術の際に術前プランニングをより正確に再現し、また骨や周囲の軟部組織を保護することで本当の意味での最小侵襲手術の実現を可能にします。Mako SmartRobotics 支援下のロボット人工関節手術はこれまでは TKA と THA のみでしたが、今年度より UKA など部分置換にも対応できるようになります。

術後のリハビリテーションにも歩行アシストロボット (HONDA) を用いたロボットリハビリテーションも導入し、術前から手術、リハビリテーションまで一貫して「Ai×ロボティクステクノロジー」による医療を提供し、患者様の早期社会復帰を目指します。

また本年度は、肩関節疾患に対しても病態、病期に合わせて関節鏡視下手術や人工関節手術を行います。

人生 100 年時代を健康に生きるために、基盤となる歩行機能の維持、また肩、膝、股関節などの関節の痛みに悩まされない生活の実現を目指し、治療をとおして社会に貢献していきたいと考えます。

『診療日程』

	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1 診	坪田	林田 肩外来	林田	坪田 人工関節 外来	藪野	坪田 膝・スポー ン外来	林田		非常勤		藪野	
2 診	藪野					藪野 股関節外来 手術説明		坪田 手術説明		藪野 股・人工 関節外来		

(土曜日は第2, 4週のみ)

2022 年 4 月より肩関節の専門外来の増設など診療体制を変更し、診療にあたります。

病棟・手術体制

病床数は 21 床を常勤医 2 名で担当し、月曜午後、火曜午前、木曜、金曜午前に手術を行った。

今年度は常勤医 3 名で担当し、水曜午前と金曜午後の手術枠を増設し手術を行います。

2. 診療実績

外来診療実績

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
外来	7,473	7,720	7,942	8,101	6,895	7,475
入院	4,605	4,663	4,193	6,227	5,667	6,974
新入院患者	177	186	206	261	251	329

年度別外来・入院延べ患者数

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
外来	7,473	7,720	7,942	8,101	6,895	7,475
入院	4,605	4,663	4,193	6,227	5,667	6,974
新入院患者	177	186	206	261	251	329

手術実績

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
関節鏡視下半月板手術(膝)	34	38	64	57	48	32
関節鏡視下鼠摘出術(膝)	13	22	25	18	8	9
関節鏡視下靭帯形成術(膝)	17	11	24	15	15	6
関節鏡視下関節滑膜切除(膝)	0	0	0	0	0	9
関節鏡視下関節唇縫合術(股)	0	0	0	0	0	1
人工膝関節置換術	64	63	52	86	72	140
人工膝関節再置換術	0	1	0	1	1	2
人工股関節置換術	2	3	2	33	43	71
人工股関節再置換術	0	1	0	1	0	0
人工足関節置換術	0	0	0	0	0	1
骨切り術	0	0	0	0	4	3
外反拇趾	0	0	0	1	2	2
上肢骨折	0	0	1	2	4	1
下肢骨折	5	4	2	8	10	4
その他部位の骨折	1	1	1	4	2	0
抜釘などその他	32	32	15	28	33	57
総手術数	168	176	186	253	242	338

3.業績

【学会発表】

1. 患者の人工膝関節全置換術におけるキネマティックアライメントとメカニカルアライメントの患者報告アウトカムを用いた比較
第51回日本人工関節学会 横浜 2021/2
藪野互平 坪田次郎
2. ロボティクス人工股関節全置換術における臼蓋掘削骨量
第48回日本股関節学会 奈良 2021/10
藪野互平 坪田次郎

【社会活動】

毎日新聞 医療とともに～人工関節最前線～

皮膚・形成外科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

- ・当科は皮膚科と形成外科という2つの科で一診療科を構成しています。両診療科は共通した疾患を取り扱うことが多く、診療に関する情報を相互共有しやすくすることで、よりクオリティの高い医療を目指しています。
- ・皮膚科、形成外科ともに、すべて専門医が診療します。
- ・当院形成外科では、特に眼瞼下垂症、下肢静脈瘤の診療に力を入れています。なお、すべての診療は下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による指導医が行います。

『スタッフ』

形成外科部長： 月野暁彦（形成外科専門医・血管内焼灼術指導医・皮膚腫瘍外科指導医）

皮膚科(非常勤)：谷口彰治（皮膚科専門医）

『診療日程』

	月		火		水		木		金		土
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	第2・4週 午前
皮膚科	谷口彰治		谷口彰治		谷口彰治		月野暁彦 【皮膚・形成外科】		谷口彰治 ※14:30まで受付	谷口彰治	月野暁彦 【皮膚・形成外科】 (第2週)
形成外科			月野暁彦	月野暁彦 ※予約制					月野暁彦	月野暁彦 ※予約制	
		OP			OP	OP		OP			

『2022年の目標』

当科では、安全で確実な治療を専門医が行うというスタンスで診療しております。

形成外科では、診療の主体である、眼瞼下垂と下肢静脈瘤の症例を増やしていきたいと考えております。

2. 診療実績

年(1月～12月集計)	2020	2021
外来患者延数	4,971	4,412
初診患者延数	849	553
入院患者延数 (退院患者含む)	453	470

年(1月～12月集計)	2020	2021
手術件数 入院	135	129
外来	171	117
眼瞼下垂手術	88	73
下肢静脈瘤手術	32	40
皮膚皮下腫瘍摘出術	124	128

3. 業績

1. 谷口彰治 尋常性乾癬治療における外用薬の選択 2021.06.09（協和キリン主催）
2. 谷口彰治 進化する乾癬の外用療法 2020.10.27（協和キリン主催）

泌尿器科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

当院が都心に位置することを最大限に活用すべく、すべての泌尿器科領域の疾患に対して低侵襲かつ早期社会復帰を目指して診察、治療を行っている。入院での治療が標準である結石破碎治療は外来手術で行い、経尿道的膀胱腫瘍切除術の入院期間は5日間と大阪府下有数の短期入院である。また、前立腺癌に対するロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術は早くから導入し、神経温存や膀胱機能温存など合併症を極力減らした術式を実施している。

『スタッフ』

副院長 関井 謙一郎、部長 木内 寛、副部長 鯉田 容平、医長 惣田 哲治

『診療日程』

各曜日午前中は1~2診で外来診療を行い、月・水・金の午後には女性専用のウロギネセンターを、金の午後には男性の専門外来（ED・精索静脈瘤・不妊）を開設している。

室	月		火		水		木		金		※土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	第2・4週 午前	
泌尿器科	1	木内 寛 ※予約制	関井謙一郎 ※予約制	関井謙一郎 ※予約制	関井謙一郎 ※予約制	木内 寛 ※予約制	関井謙一郎 ※予約制	交代		鯉田容平		交代
	2	惣田哲次				鯉田容平				惣田哲次		
	3										交代 (精索静脈瘤・性功能) ※予約制	
ウロギネセンター		EX 惣田哲次 ※予約制	OP	OP		OP 木内 寛 ※予約制	OP	OP	OP	OP	EX 鯉田容平 ※予約制	

『2022年の目標』

当院と大阪暁明館病院、大阪陽子線クリニックの3病院で前立腺センターを立ち上げた。前立腺癌については、ダヴィンチ、陽子線治療ができ、前立腺肥大症についてはホルミウムレーザー、グリーンレーザーが可能となった。前立腺癌、肥大症に対する治療選択の幅が広く、このセンターを通じて、さらなる地域貢献を予定している。

2. 診療実績

2021年度の外来新患数、入院件数はCOVID-19の影響が継続し、2020年よりもさらに少ない結果であったが（表1）、手術件数については同程度を維持することができた。COVID-19で骨盤臓器脱などQOL疾患は緊急性がないことなどもあり、受診控えがあり、女性泌尿器科の手術が減少したと予想される（表2）。

2022年はワクチン接種を受ける比率が増加し、受診控えも改善すると推定され、2019年程度まで回復すると考えている。

表 1 泌尿器科の外来、入院、手術実績

	外来新患者数	1日平均 外来患者数	入院件数	手術件数 (ESWL 含まず)	ESWL (体外衝撃波碎石術)
2020年度	693	40	304	171	53
2021年度	484	43	257	176	52

表 2 泌尿器科の手術内訳

	内視鏡手術	腹腔鏡手術	ロボット手術	女性泌尿器科手術	男性泌尿器科手術
2020年度	59	15	22	46	14
2021年度	78	14	28	36	12

3. 業績

【論文】

1. 関井謙一郎、今中岳洋、鯉田容平：尿管皮膚瘻患者で発生した腎盂内異物の1例. 泌尿器外科 34 : 643-645.2021

婦人科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

当科は 2006 年より腹腔鏡下手術に特化した診療を開始し、現在まで 8000 例を超える腹腔鏡下手術を施行してきた。現在、良性疾患に対する手術を中心と診療をしており、対象となるものは子宮筋腫・子宮内膜症・子宮腺筋症・卵巣嚢腫・不妊症などである。これらの診断はあまり難しくはないと思われがちであるが、しばしば悪性診断との鑑別は重要であり、手術治療のための評価(手術を行う場合の難易度や子宮内膜症の重症度、癒着の有無など)は容易ではない。われわれは、MRI ゼリー法や経膈エコーによってダグラス窩病変に対しても術前に正確に評価することに努め、患者のライフスタイルや人生設計などを考慮しながら、治療法を検討し、手術をする場合には、その時期や術式、術後の薬物治療(不妊症の場合には術後の治療内容や計画)についても十分検討している。

一般的に婦人科良性疾患の手術は、悪性腫瘍と異なり生命に関わることは少ないと思われがちであるが、大きな腫瘍や癒着を伴うものが多く、手術そのものは決して容易ではないものが多い。そのような症例に対して安全に確実に、そして術後の QOL を最大にしうる手術内容が求められている。腹腔鏡下手術は開腹手術に比べて腹腔内臓器や病変を拡大して観察することで細かな手術操作ができるところが大きく優れている。私たちは単に傷が小さいだけでなく、精細な操作による、より身体に優しい(出血が少なく、できるだけ術後癒着のない)手術、そして開腹手術では決して実現できないであろう手術内容を目指している。

『スタッフ』

松本貴 副院長兼婦人科部長(2006 年 4 月入職)

細川有美 婦人科医長(2019 年 4 月入職)

岩井夏実(2018 年 4 月入職)

楠元理恵(2021 年 4 月入職)

なお、浅野正太(2020 年 4 月-2022 年 3 月)は大阪大学の人事で兵庫県立西宮病院へ異動した。

『診療日程』

	室	月		火		水		木		金		土
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	第2・4週 午前
婦人科	1	岩井夏実		松本 貴 <small>(予約初診のみ)</small>		細川有美		交代		浅野正太		松本 貴 <small>(予約初診のみ)</small>
	2			細川有美 浅野正太 岩井夏実 楠元理恵	手術説明	楠元理恵			手術説明			交代 <small>(予約初診のみ)</small>
	3											松本 貴 <small>(せせりどまじこむ)</small>
		OP	OP			OP	OP	OP		OP	OP	

『2022年の目標』

2021年は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置に基づく要請が何度も発出された影響で初診患者はなかなか増えず、手術症例数は2020年から横ばいであった。2022年は4月より初診や紹介が増えつつあり手術件数は増加してくると思われるが、その中でも患者QOLが最大になるよう一つ一つの手術を大切にしていきたいと思います。そして、スタッフの実力も安定してきており、能力を最大限に活用できるよう環境を整えていきたい。

2021年は当科主催のオンラインセミナーを4回開催し、毎回全国より200名を超える参加があった。また、オンラインでの12名の産婦人科医に手術指導を行った。2022年も同様の活動を続けていく予定である

2. 診療実績

2021年

外来患者数 6,240人

初診患者数 593人

入院患者数 2,315人

婦人科手術実績

		2021年
手術総数		347
腹腔鏡下子宮全摘術		151
	深部子宮内膜症を含む	24
腹腔鏡下子宮筋腫核出術		71
腹腔鏡下子宮附属器腫瘍摘出術	卵巣嚢腫核出術	82
	子宮附属器摘出術	25
腹腔鏡下卵管摘出術		11
腹腔鏡下子宮内膜症病巣切除術（子宮全摘術を伴わないもの）		22

3. 業績

【学会】

1. 松本貴：ランチョンセミナー21「増えるTLH！低侵襲手術だからこそ、術後トラブルの軽減を追求した脛断端縫合とは？」：第73回日本産科婦人科学会学術講演会；2021年4月25日；新潟県新潟市

2. 細川有美, 松本貴, 浅野正太, 清時毅典, 岩井夏実: 巨大子宮筋腫を有する肥満, 低身長患者の腹腔鏡下子宮筋腫核出術における皮下鋼線吊り上げ法併用の有用性: 第73回日本産科婦人科学会学術講演会; 2021年4月22-25日; 新潟県新潟市
3. 清時毅典, 岩井夏実, 浅野正太, 細川有美, 松本貴: 膀胱子宮窩の膜構造~TLHを念頭に置いて~: 第73回日本産科婦人科学会学術講演会; 2021年4月22-25日; 新潟県新潟市
4. 浅野正太, 松本貴, 楠元理恵, 岩井夏実, 細川有美: 腹腔鏡下手術における腸管吊り上げによる術野展開の工夫と検討: 第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 2021年9月11-13日; Web開催
5. 松本貴: ランチョンセミナー6 若手に伝えたい! TLHの工夫 RUMI IIシステムで安全・快適に行う TLH ~子宮頸部周囲・腔管をエレガントに処理する: 第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 2021年9月11日; Web開催
6. 岩井夏実, 松本貴, 楠元理恵, 浅野正太, 細川有美: 当院における腹腔鏡下子宮腺筋症核出術および深部子宮内膜症切除術施行症例の術後妊娠に関する検討: 第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 2021年9月12日; Web開催
7. 楠元理恵, 岩井夏実, 浅野正太, 細川有美, 松本貴: 当院での子宮マニピュレーターの使用~術野展開は自分の手で行う~: 第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 2021年9月13日; Web開催
8. 松本貴, 楠元理恵, 岩井夏実, 浅野正太, 細川有美: パネルディスカッション1 オンラインビデオクリニックの試み: 第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 2021年9月12日; Web開催
9. 細川有美, 松本貴, 楠元理恵, 清時毅典, 岩井夏実, 浅野正太: COVID-19感染下におけるオンラインラパロセミナーの導入: 第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 2021年9月13日; Web開催
10. 松本貴: ランチョンセミナー12 目で感じる! 膜・剥離ラインを捉える! ~ IM-AGE1S™RUBINA™ - 「逆算して考える TLH - あらためて考える切開と剥離 -」: 第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 2021年9月13日; Web開催

【講演会】

1. 松本貴: ラパロ、3つの法則 - 安全な TLH が”できる” 術者になるために - : アドスプレーWEBセミナー; 2021年3月25日; Web開催

【講演会 (当院主催)】

1. 第7回西梅田婦人科ラパロセミナー (テーマ: ダグラス窩の解剖学), 2021年2月27日, Zoom ミーティング
2. 第8回西梅田ラパロセミナー (テーマ: 日常診療をこなしながら臨床研究を極める~英語論文化の視点とともに~), 2021年5月15日, Zoom ミーティング
3. 第9回西梅田ラパロセミナー (テーマ: 良性手術でも知っておきたい膀胱子宮靱帯の解剖学), 2021年7月10日, Zoom ミーティング
4. 第10回西梅田ラパロセミナー (テーマ: 大阪中央病院の TLH 巨大頸部筋腫篇), 2021年11月27日, Zoom ミーティング

眼科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

地域の病診連携に於いて緊急手術および入院の要請に確実に応えられるようにしている。

2020年度から実現した大阪大学眼科医局派遣医師による当院健康管理センター施行の一般・特殊健診・ドック等での眼底写真の一次読影、色覚検査の判定は軌道にのっているが、眼底写真の二次読影は引き続き眼科スタッフで行っており、

電離放射線健診における水晶体検査も眼科外来に於いて眼科スタッフで施行している。

『スタッフ』

医師 常勤 井上由美子

非常勤 長谷川琢也 中川里砂 塚本裕次 片上千加子

塚本浩子

視能訓練士 常勤 森田亜紀子 蔵重聡美

非常勤 月1名 火2名 水1名 木1名 金2名

『診療日程』

室	月		火		水		木		金		※土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	第2・4週 午前	
眼科	1			井上由美子 ※予約制	井上由美子 ※予約優先		塚本浩子 (第1・3週)	井上由美子 ※予約制	井上由美子 ※予約優先	井上由美子 ※予約制	井上由美子 ※予約制	井上由美子 (第2・4週)
						塚本裕次 (第2・4・5週)				(8・22日休診)		
						13:30~※予約優先						
	2	中川里砂 ※予約優先	中川里砂 ※予約優先			片上千加子 ※予約優先				中川里砂 ※予約優先	中川里砂 ※予約優先	
	3			長谷川琢也 (網膜硝子体外来) ※予約制	長谷川琢也 (網膜硝子体外来) ※予約制					長谷川琢也 (網膜硝子体外来) ※予約制		
		OP	OP			OP	EX		EX			EX

『2022年の目標』

- ・アフターコロナを見据えて手術増患につとめる。
- ・初診患者の紹介率をあげる。
- ・法人の経営方針に則り人件費を削減する。

2. 診療実績

2021年

患者数

外来患者数	7,348	初診患者数	601
入院患者数	1,025		

手術件数

水晶体再建術	256
硝子体茎頭微鏡下離断術	90

耳鼻咽喉科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

当院耳鼻咽喉科では紹介状なしでも診察時間内であれば受診されたすべての患者さんを診察するよう心がけています。頭頸部・咽喉頭・鼻腔領域では、血液検査、ファイバー検査、CT検査、MRI検査、超音波検査などで腫瘍、感染疾患に対応しています。内耳領域では、聴力検査、ティンパノメトリー、重心動揺検査、ENG検査、vHIT、前庭誘発筋電位 (VEMP)、シェロング試験、CT検査、MRI検査 (内耳造影 MRI は協力病院にて施行可能) など大学病院にも劣らない設備で内耳疾患に対して精査をすることができます。特に『めまい診療』に対して力をいれています。

これまで行われていた土井勝美先生による耳科手術は2022年3月31日で終了となりました。

『スタッフ』

常勤医1名 (白石 功)、非常勤医師2名 (大和田 聡子、土井 勝美) で日々の診療に携わっています。常勤医である白石 功は2021年4月より近畿大学病院耳鼻咽喉科教室から赴任してきました。

『診療日程』

	月	火	水	木	金	土
午前	白石功 大和田聡子	白石功	白石功	土井勝美 (月2回) 完全予約制	白石功	第2週 白石功
					大和田聡子	
午後	めまい検査	めまい検査	めまい検査 補聴器	休診	めまい検査	休診
					補聴器	

『2022年の目標』

現在力を入れているめまい診療だけではなく、難聴に対してより詳細な検査が出来るように検討しています。これにより聴力検査では異常がないが難聴を訴える患者さんに対しても対応が可能と考えます。

地域の病院の皆様と協力して病気に苦しむ患者さんに対して丁寧な診療を心がけていこうと常に意識しています。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。

2. 診療実績

外来患者数 3,015 人 めまい検査件数 111 件
入院患者数 155 人

放射線科

1. 概要

『部署の方針と特徴』

当科は放射線検査部門の一翼を担う事を自覚しつつ、最小限の侵襲で最大限の医療情報の提供を目指しています。医療機器の適切なメンテナンスや運用はもとより、教育や検査内容の充実などにも留意しております。被ばくに関しても線量低減の意識を常にもち、患者様には優しく、かつ臨床に耐えられる医療情報の提供を責務と考え努めてまいります。また、今後は地域医療に少しでも貢献できるよう、今まで以上に御要望には対応させて頂き、地域医療の一翼を担う所存です。

『スタッフ』

放射線科部長 森田 吉多佳（日本専門医機構 放射線科専門医、
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
リザーバー&ポート研究会 世話人）

放射線技師 18名

『2022年の目標』

昨年度に導入したCT,MRI装置の特色を院内外にPRして、出来る限り柔軟に対応して積極的に受け入れていく。新しく導入した線量管理システムを活用してCT、IVR被ばく線量管理を適正に行い、患者様の被ばく線量低減に努める。

地域医療を担う医療機関様からの要望には最大限対応しつつ、患者様には優しく、かつ臨床情報は最大限に提供できるよう様な体制を目指します。

また、各種検査においても積極的に飛び入り検査を受け入れ、検査件数の増加を図りたい。

2. 診療実績

(診療部門検査件数)			
	2020年度	2021年度	前年度比
一般撮影	8,126	8,561	105.3%
CT	3,280	3,705	112.9%
MRI	2,177	2,476	113.7%
マンモグラフィ	354	373	105.3%
透視検査	375	485	129.3%
骨密度	364	498	136.8%
カテーテル検査	602	674	111.9%

(健診部門検査件数)			
	2020 年度	2021 年度	前年度比
一般撮影 (胸部)	59,663	63,726	106.8%
CT	751	823	109.5%
MRI	739	935	126.5%
マンモグラフィー	6,858	7,788	113.5%
透視検査 (胃透視)	18,153	18,260	100.6%
骨密度	978	1,213	124.0%

3. 業績

【認定資格者】

日本専門医機構認定放射線科専門医 1名
マンモグラフィー技師認定者 7名、
X線 CT 撮影技師認定者 6名
日本消化器がん検診学会胃がん検診専門技師認定者 3名
胃 X線読影補助認定技師 2名
胃がん検診読影部門 B 資格認定者 2名
胸部肺がん健診認定者 1名
血管造影 (IVR) 技師認定者 1名、
救急撮影認定技師者 1名

【施設基準】

画像診断加算 2 取得施設

【論文】

Oncology 2020;98(5):267-272.

Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy of 5-Fluorouracil for Patients with Unresectable Liver Metastases from Colorectal Cancer Refractory to Standard Systemic Chemotherapy: A Multicenter Retrospective Study

[Yoza Sato](#)¹, [Yoshitaka Inaba](#)², [Takeshi Aramaki](#)³, [Miyuki Sone](#)⁴, [Yoshitaka Morita](#)⁵, [Hideyuki Nishiofuku](#)⁶, [Toshihiro Tanaka](#)⁶, [Masaya Miyazaki](#)⁷, [Kiyoshi Matsueda](#)⁸, [Yasuaki Arai](#)⁴

麻酔科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

当科の方針は、手術患者の術前評価を的確に行い、麻酔合併症を起こさないことです。

1階入退院センターに術前外来を設け、麻酔説明ビデオ視聴、麻酔科医診察、手術看護師説明を行い、そのうえで、患者様に一番適した麻酔法、術式を計画しています。

手術室には、腹腔鏡に適した人工呼吸のできる最新の麻酔器を導入しています。

また、手術患者様の不安の多くは、手術後痛いのではないかとこのところにあります。超音波ガイド下神経ブロックに力を入れており、痛くない術後管理を目指しています。

当院は、麻酔科医全員が、麻酔科専門医であり、質の高い麻酔を提供し、患者様の安全安心を一番に考えています。

『スタッフ』

麻酔科部長 早助弓子 日本専門医機構認定麻酔科専門医 日本麻酔科学会指導医

麻酔科主任 朝倉芳美 日本専門医機構認定麻酔科専門医 日本麻酔科学会指導医

麻酔科主任 松田千栄 日本麻酔科学会専門医 日本麻酔学会指導医

麻酔科主任 春日千春 日本麻酔科学会専門医 日本麻酔学会指導医

『診療日程』

麻酔科外来 月午後、火午後、金午後、土午前 交代制

	室	月		火		水		木		金		※土 第2・4週 午前
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
麻酔科 (術前外来)	1階		早助弓子		早助弓子 朝倉芳美 春日千春 松田千栄 交代						交代	交代

『2022年度の目標』

2022年4月より常勤麻酔科医の1名増員がありましたので、全身麻酔の手術枠を増やしていきます。また、麻酔科医、看護師、薬剤師からなる術後疼痛管理チームを結成し、さらなる「痛くない」手術を目指します。

2. 診療実績

2020年 麻酔科管理手術数 総数 810件

内訳 婦人科 378件、外科 188件、整形外科 150件、泌尿器科 79件

2021年 麻酔科管理手術数 総数 1062件

内訳 婦人科 562件、外科 172件、整形外科 214件、泌尿器科 97件

2020年は、コロナの影響で手術数が減っていましたが、2021年は約30%増加しました。

2020年10月より、麻酔科外来での術前診察を開始し、全例にて麻酔科術前診察を行うことができた。

リハビリテーション科

1. 概要

『部署の方針と特徴』

当科は、整形外科の膝関節・股関節・肩関節の術後（関節鏡、人工関節置換術など）リハビリテーションを中心に行っている。膝・股関節人工関節置換術後のリハビリテーションでは、2020年からロボットリハビリテーション（Honda 歩行アシスト）を導入し、安定した歩行能力の早期獲得を目指している。また、患者さんの動作パフォーマンスの向上やスポーツ復帰を希望される方への運動指導として、個々の競技特性に応じた各種トレーニングやピラティス専用器具を使用した運動療法も行っている。2022年度はPT2名を増員し、術後リハビリテーションのさらなる充実と、患者満足度の向上を目指す。

『スタッフ』

リハビリテーション科部長 坪田 次郎
理学療法士 6名 主任 平野 弘臣
副主任 吉田 昌広、大村 貴子
秋山 恵津子、益原 理緒、竹田 七海

『2022年の目標』

リハビリテーション技術の研鑽と接遇力を強化し、患者満足度の向上に努めること、他職種連携を強化することで、医療事故防止に努め、安心して安全なリハビリテーションの環境づくりを行うこととしている。

『施設基準認定』

運動器リハビリテーション料（Ⅰ） 呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）

2. 診療実績

リハビリ実施患者実人数（外来・入院）

外来患者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年	58	49	70	67	62	78	98	80	73	75	76	87	873
2021年	84	75	90	74	85	92	109	102	88	89	71	87	1,046

入院患者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年	465	314	395	385	242	323	397	325	478	342	315	363	4,344
2021年	320	338	583	456	424	425	446	454	452	357	433	523	5,211

リハビリ実施件数（外来・入院）

外来患者件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年	58	49	70	67	62	78	98	80	73	75	76	88	874
2021年	84	75	90	74	85	92	109	102	88	89	71	87	1,046

入院患者件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年	660	460	576	599	393	485	588	472	655	492	466	578	6,424
2021年	517	527	771	600	572	591	630	607	610	521	561	756	7,263

3. 業績 その他の活動

院内職員向けの福利厚生として「健康増進運動教室開催（ピラティスなど）」

2014年2月～2020年3月まで実施（現在、新型コロナウイルス感染予防のため休止中）

薬剤部

1. 概要

『部署の方針と特徴』

「医療の担い手として生命を尊重し、患者様の安全と安心に貢献し、適切な薬物治療を提供します。」を薬剤部の理念とし、業務に取り組んでいる。薬剤管理指導業務は投薬のある入院患者様に対し2021年度も実施率ほぼ100%を維持してきた。スタッフ欠員のままではあるがペリオ外来業務も参加するようになり、院内における薬剤師の役割は更に重要となっている。

『スタッフ』

薬剤師 8名 ・ 事務員 1名

『2022年の目標』

薬剤部理念に基づき、チーム医療の一員として薬物治療に貢献していく。

2. 診療実績

処方箋枚数

2021年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来院外	5,186	4,321	5,207	4,952	4,930	4,978	5,317	4,891	5,410	4,804	4,527	5,611	60,134
外来院内	8	5	7	2	18	5	2	1	7	7	12	8	82
外来注射	318	269	308	259	288	284	296	277	304	293	258	314	3,468
入院処方	2,172	1,842	2,136	2,112	2,180	1,994	2,280	2,349	2,387	2,165	2,096	2,542	26,255
入院注射	731	737	873	830	767	704	722	785	872	849	898	926	9,694

薬剤管理指導算定件数

2021年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
指導件数	487	422	505	465	487	456	482	533	525	489	490	565	5,906

無菌調剤件数

2021年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
抗癌剤	25	16	21	9	16	18	14	15	19	31	20	22	226
その他	10	10	11	6	14	12	8	10	9	10	6	12	118

3. 業績

鶴岡早央里, 北川克美, 長田志織, 竹内千里, 天王寺谷彩奈, 岡田美織, 片山弥生, 波多野晃弘, 武内真有, 井上智香子, 明神真希子, 南雄三, 美内雅之: Clinical inertia の許容範囲の検討～2度の見逃しはHbA1cを悪化させる～第64回日本糖尿病学会年次学術集会; 2021年5月20日-22日; WEB開催

中央検査部

1. 概要

『部署の方針と特徴』

部門のモットーは「正確な検査結果を迅速に提供する」。

中央検査部の人員については、育児休暇を取得中の技師数4名となったので、派遣職員の増員で対応した。12月末に正職員の退職があったが、欠員となっていた準職員の採用があり、業務への影響は最小限であった。

病理検査室は非常勤医師によりシフトを組んで診断業務を実施していただいている。病理医不在時の術中迅速診断は大阪プレストクリニックと契約した体制となっている。

検体検査室の運営はH.U. フロンティア（エスアールエル）とFMS契約をされており、5月に免疫化学発光分析装置1台、生化学自動分析装置2台を更新した。生化学2台は分注機と搬送連結してバックアップ体制を構築。検体数増加への対応、トラブル時やメンテナンス時のノンストップ検査体制を確立した。自主運営としては5月に大阪府の助成制度を利用して新型コロナウイルス検査用のPCR検査装置（GENECUBE）を導入し、多検体処理が可能となった。

生理検査では部門管理の超音波診断装置が17台あり、運用期間もばらつきがあるため各装置の性能維持について管理体制を強化した。

災害医療対応車両のMedical-ConneXへの搭乗員（Blue Phoenix）として2名を選出した。両名はAMAT 隊員研修を修了し、はくほう会セントラル病院において行われた災害訓練にも参加した。

5/18～6/28の期間において臨地実習生1名（長浜バイオ大学）の受け入れを行った。

『スタッフ』

部長 桑迫 崇裕 技師長 坂東 雅彦

常勤医師1名 非常勤病理医4名 正職員技師29名 準職員技師7名
嘱託職員技師1名 派遣職員技師1名

『認定資格取得状況』

超音波検査士13名 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理技師1名
国際細胞検査士3名 認定輸血検査技師1名 認定血液検査技師1名
二級臨床検査士9名（循環生理学、免疫血清学、血液学、臨床化学、病理学）
緊急臨床検査士10名 総合健診指導士1名 日本乳がん検診（A評価）4名

『2022年度の目標』

「検査現場では患者さん、職員ともに安全に検査を行い、検査結果を提供する」を念頭に置き業務を遂行する。

2. 診療実績

昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の拡大による検査件数減少の影響はコロナ禍での医療体制が安定した事によりその影響は徐々に低下し、検査件数が戻りつつある。

	2020 年度	2021 年度
生化学検査	1,497,357	1,557,304
血液学検査	142,381	153,954
一般検査	193,292	208,557
免疫血清学検査	93,806	121,334
細胞診検査	13,642	15,561
病理組織検査	2,208	2,144
超音波検査（心臓）	3,049	3,476
超音波検査（腹部・表在等）	43,942	48,100
呼吸機能検査	15,445	17,643
心電図検査	67,757	72,275
トレッドミル検査	1,540	1,687
ホルター心電図	324	358
血圧脈派・肛門内圧検査	350	579

3. 業績

【学会発表】

山本 真大 「静脈血栓塞栓症における超音波検査の役割」
第46回超音波検査学会学術集会 2021年5月9日 ライブ配信

【座長・司会】

坂東 雅彦 「機器・試薬の導入方法について～メーカーに頼らずやってみよう！」
令和3年度日臨技近畿支部研修会「臨床化学 Web 研修会」
2021年12月11日 大阪市 ライブ配信

臨床工学部

1. 概要

『部署の方針と特徴』

臨床工学部は、2018年4月より独立し新設された。技術の向上に励み、他職種との連携を深めチーム医療に貢献し、より質の良い医療を患者様・スタッフに提供することを目標に様々な臨床業務に携わっている。

『スタッフ』

部長：早助弓子（麻酔科部長・手術部部長）

臨床工学技士 3名

2. 診療実績

血管造影業務

心臓カテーテル検査・治療、心臓ペースメーカーの植え込み、経皮的カテーテル心筋焼灼術など関連機器の操作、使用材料の管理を行っている。

2021年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CAG	29	23	32	25	29	18	21	22	24	23	24	20	290
PCI	27	23	20	22	17	22	22	20	24	23	20	23	263
PTA	1	0	0	2	3	3	1	1	3	4	3	4	25
ABL	5	4	6	6	2	6	8	6	6	6	4	4	63
PMI	1	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	2	7
他	0	2	6	5	2	1	2	3	4	2	1	1	29
PM外来	22	17	13	6	8	20	22	16	10	8	6	17	165

血液浄化業務

血液透析、血漿交換、LDLアフェレーシス、血液吸着、他特殊浄化を行っている。

2021年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
HD	2	7	2	13	3	2	3	3	11	3	11	5	65
DFPP	6	5	5	4	5	5	6	2	1	1	1	1	42
LDL-A	24	24	28	32	24	26	22	24	21	20	21	24	290
他	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5

手術室業務

手術支援ロボット（泌尿器科：Davinci 整形外科：MAKO）

2021年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Davinci	1	1	5	3	4	2	3	4	0	2	2	5	32
MAKO	11	13	15	17	17	14	16	18	16	17	15	20	189

医療機器管理業務

院内の様々な医療機器の保守・修理・点検を行い安全に使用できるよう管理運営している。

輸液ポンプ・シリンジポンプ・セントラルモニター・ベッドサイドモニター・パルスオキシメーター・PCPS・IABP・IVUS など

栄養部

1. 概要

『部署の方針と特徴』

入院患者に対して正しく栄養評価を行い適切な栄養サポートを実践し、栄養指導においては患者個人に見合った食事指導を展開し合併症の進展防止や重症化予防につながるよう取り組んでいる。

『スタッフ』

栄養部長 美内雅之 管理栄養士 3名(糖尿病療養指導士 2名、病態栄養専門管理栄養士 1名)
給食委託会社スタッフ(管理栄養士 1名、栄養士 2名、調理師 3名、調理作業員 12名)

『2022年の目標』

栄養介入が必要な患者に対して他職種と共同して栄養管理を行い、栄養介入で得られた結果を分析し日々の栄養管理、栄養指導業務に反映させるとともに入院食事内容の充実化を図る。

2. 診療実績

2021年度栄養指導実績

(単位：件)

2021年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	82	62	79	69	75	66	76	73	84	70	65	75	73
外来	111	102	125	127	101	117	110	118	142	127	107	123	117
集団指導	6	9	1	6	10	6	4	5	11	12	5	7	4

2021年度特食加算

(単位：%)

2021年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特食加算	44	40	41	43	35	49	43	43	42	42	46	44	43

3. 業績

【学会発表】

1. 片山弥生、岡田美織、天王寺谷彩奈、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、平野弘臣、武内真有、山木香名、明神真希子、波多野晃弘、南 雄三、美内雅之

COVID-19 治癒後の2次性サルコペニアへの栄養サポート

～BCAA 付加食と運動リハで独歩退院できた1例～

第24回・第25回日本病態栄養学会年次学術集会、2022年1月28日～1月30日、京都府京都市

看護局

1. 概要

『部署の方針と特徴』

看護局の理念は「共にあゆむ最善の看護」で、患者様やご家族と共に医療スタッフと共に安全で良質な看護を提供することです。看護局の基本方針は「個別性を大切にする看護」、「チーム医療の推進」、「自己研鑽と意識改革」です。健診における予防から治療に至るまで受診者様や患者様を取り巻くすべての人々と協働し、看護の力が最大限に発揮できるよう取り組んでいます。

『スタッフ構成』 看護師（准看護師1名含む）病棟：66名（平均年齢：37.3歳）

外来その他：91名（準職員・産休・育休含む）

平均在職年数：7.4年 離職率：11%

看護補助者：12名 内視鏡洗浄員：7名 中材滅菌洗浄員：5名

『看護体制』

急性期一般入院料1（7：1）重症度、医療・看護必要度Ⅱ

2交替制（病棟）固定チームナーシング受け持ち制

看護職員夜間配置加算（12対1加算1）

25対1急性期看護補助体制加算（看護補助者5割未満）

認知症ケア加算3

せん妄ハイリスク患者ケア加算 2021年10月取得

2022年3月に皮膚形成外科を10階病棟から12階病棟へ編成

『看護実践面』

2021年4月に地域連携・入退院支援センター開設

入退院支援加算2（看護師専従+MSW専任）2021年10月取得

入院時支援加算2（看護師専任）2022年3月取得

新型コロナワクチン医療従事者および職域接種・PCRセンター稼働

『看護関連物品』

離床検知装置「転倒むし」3台・衝撃吸収床マット6枚購入

『2022年の目標』

- 2022年度診療報酬改定における看護必要度の対応/業務整備・改善
役割分担の促進/認知症・せん妄対策の強化
- 待遇の向上/褥瘡予防対策/院内感染対策の推進/入院前支援の充実
- 急変時対応の強化/災害対策の体制整備/キャリアラダー別研修の継続
サポーター教育/実習指導者の育成/キャリア形成支援
- 残業時間の削減/排尿自立支援加算の取得/患者サポート体制加算の取得
糖尿病認定看護師による管理料の加算の取得

看護必要度（%）

2021年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10階病棟	50.7	41.3	37.5	39.0	47.0	42.1	47.0	43.6	50.1	44.6	44.8	40.2
11階病棟	25.9	33.7	27.6	25.8	34.1	32.4	27.7	20.1	30.9	36.3	30.5	29.4
12階病棟	66.7	63.1	57.8	64.5	61.9	65.9	68.5	63.6	57.9	62.5	54.7	64.9
3病棟合計	47.2	45.6	40.6	43.0	49.3	46.5	48.2	42.8	47.0	48.1	43.5	43.5

2. 委員会活動実績

	目標	実績
教育委員会	1. 看護師のレベルに応じた院内教育研修を企画・運営する。 2. 研修と自己学習に意欲的に参加できるように教育委員として関わる。	レベルに応じた目標が達成できるよう研修を設定。救急看護は演習実演形式で特に満足度が高かった。委員の働きかけでe-ラーニング総アクセス率89.5%達成。アンケートで理解度97.7%、適切なレベル84%であった。
安全推進委員会	1. インシデントレポート内容を共有し改善策を検討し、看護実践に生かす。 2. 院内ラウンドを行い、各部署の取り組みや5S状況を確認する。 3. 最新の医療安全の知識を深め、委員会活動の実践に活かす。	毎月インシデント報告、意見交換を実施し、各部署の事例検討と共有を行った。医療安全交流会やWeb会議の内容を伝達した。ラウンド表を検討し、5Sラウンドを4回実施した。毎月勉強会「医療安全教育」抄読会を行った。医療安全マニュアルの内容と現状との差異を確認した。次年度改訂に着手する。
記録委員会	1. 電子カルテに応じた記録マニュアルの整備。 2. 電子カルテ導入による現状での問題点を解決する。 3. 記録監査方法の検討。	電子カルテ導入後の項目を選定し、DPCに係る入力と認知症・せん妄ケア加算の項目を新たに追加した。病棟・手術室・外来記録マニュアル作成。各部署から疑問点や問題点を抽出し検討した。記録監査の検討には至らなかった。次年度の課題とする。
リンクナース会	1. 感染経路と予防策を理解し、院内の感染防止の推進を図る。 2. 院内で適切な感染対策の周知ができる。	ICTメンバーと環境ラウンド（年6回）実施。手洗いチェッカー巡回、手指衛生の啓発と使用量測定。ゾーニング/動線作成/PPE着脱訓練実施。現場の感染対策検討会と専門誌を用いた学習会を実施した。
実習指導者会	1. ココ禍においての実習環境を整え効果的な実習支援ができる。 2. 実習指導担当者と知識を共有し互いに成長することができる。	学生のレベルと現状にあった院内刺入エンターションを実施。教員より前年度の実習状況を確し、理解度や技術の習得レベルを把握して実習指導を行った。指導者に自己評価表を提示し注意点を伝達した。
主任会	1. 新採用者支援システムの見直しを行い、教育システムを確立する。 2. 入退院支援センターと病棟・外来多職種と連携しシステムを整備する。 3. 実践に即した看護研究ができるよう支援する。	新人看護師用の病棟業務チェックリストと使用方法を見直し改訂した。新採用者刺入エンターションの改訂。入退院支援マニュアルの改訂と周知。スクリーニングシートとカンファレンスの運用方法を検討。MSWとの情報交換。看護研究の進捗状況を把握し、規模の縮小に伴い運営方法や会場レイアウトを変更した。
看護補助者会	1. 看護チームの一員として連携し、問題を解決できる。 2. 看護チームの一員として役割と業務について知識を深め、安全な業務が実践できる。	入院セットの寝衣を襟なしに変更した。リネン庫の不潔提出場所を決定した。看護補助者スケジュールの改訂。テキストを使用し看護師と補助者の業務範囲の確認を行った。年12回のe-ラーニング研修を全員受講した。今年度初めて医療用語の研修を開催した。
業務委員会	1. 病棟看護手順の「各種業務の取り扱い」見直し、改訂。 2. 新人看護職員技術マニュアル作成。	項目・内容を確認、検討して改訂した。電子カルテ導入に伴い変更事項や業務の追加・削除を実施。ビジュアルラーニングネット新人看護職員技術チェックコースの内容を当院の手順と照合し189項目作成した。

3. 臨地実習指導実績

大阪医専看護専門学校		期間	人数	総人数	実習指導者数	
成人Ⅰ：4年生		5/10～5/20（8日間）	3名	33名	18名	左記人数の内 講習終了者7名
統合：4年生		6/7・6/11（5日間）	5名			
基礎看護学実習Ⅰ：1年生		7/6～7/13（5日間）	12名			
基礎看護学実習Ⅱ：2年生		11/8・11/24（10日間）	13名			
大阪医専看護専門学校		期間	人数	総人数		
成人Ⅱ：39期生		5/31～6/18（12日間）	5名	5名		

健康管理センター

1. 概要

『健康管理センターの方針と特徴』

受診者数は総受診数で毎年 1.5%前後の増加を続けており 2019 年度には 2020 年 1 月からの新型コロナウイルス感染症蔓延の影響を受けたものの過去最高の総受診者数 73,800 人、そのうち人間ドック（半日ドック）受診者数 14,400 人に達したが、2020 年度は新型コロナウイルス感染症蔓延による全国的な受診控えおよび緊急事態宣言発出に伴う厚生労働省や関連学会・団体の勧告および当時の経営母体（健康保険組合連合会）の指示に従い 4 月上旬から 5 月末まで約 1 ヶ月半健診業務を休止したことで総受診者数 62,900 人、そのうち人間ドック受診者数 12,700 人となった。2020 年 6 月の業務再開後は健診関連 8 団体から出された「健康診断実施時における新型コロナウイルス感染症対策について」のガイドラインを徹底的に遵守しながら健康診断・保健指導を実施した結果、2021 年度は総受診者数 67,473 人、そのうち人間ドック受診者数 14,675 人となり受診者数は順調に回復基調にある。

当センターは急性期総合病院併設型の健診施設で計 3 フロアから構成され、受診当日に結果説明・保健指導を実施する人間ドック（半日ドック）を 6F・8F で、当日の結果説明の実施は必要が必要な受診者に対して受診勧奨・保健指導が行われる一般健診を 8F・9F で行っている。

2000 年以降の健診データ、2008 年以降の画像・心電図データはすべてサーバーに保管されており、必要な時に過去データの参照が常に可能であることが健診・検診精度の向上に寄与している。さらに急性期総合病院併設型の健診施設のため各診療科との連携が緊密であることから、要受診・要精査と判定された受診者の外来予約が容易・円滑となっている。健診から各診療科外来への紹介患者総数はコロナ感染症蔓延前の 2019 年度の 4,315 名（外来初診患者総数の 37.0%）から 2020 年度は 3,341 名（外来初診患者総数の 42.3%）と健診受診者数の減少に伴い減少したが、2021 年度は 3,840 名（外来初診患者総数の 51.8%）とこちらも順調に回復基調にある。

当センターの運営方針は、受診者の皆様に「信頼」され「納得」いただける健診・検診を「平等」に提供することであり、そのために全職員が常に向上心を持ちながら受診者の皆様にしっかり寄り添う健診・検診施設であり続けることを目指している。また、「要受診・要精密検査」の判定がなされた場合の精神的負担（特にがん検診で顕著となる）および精密検査受診の際に生じる経済的・時間的負担などの健診・検診の「不利益」を可及的に最小化するため、受診を希望される検査の選択を判断する際に必要となる情報を医療面接・ホームページ含め十分に提供するとともに、健診・検診における要精密検査率を許容範囲内とするために検査を実施する技師および結果を判断・説明する医師の多くが関連学会・機構から健診・検診を実施するにおいて必要とされる資格を取得・更新しており、かかる資格取得を推奨・サポートする体制を施設としても整えている。さらに、健診・検診の質を客観的に評価して質の向上に反映させるため、外部の健診関連各種団体の精度管理調査および優良施設認定審査に積極的に参加している。

『健康管理センターのアピールポイント』

① 脳ドックプレミアムコース

脳卒中（くも膜下出血・脳梗塞・脳出血など）の発症リスク評価、潜在している脳腫瘍の発見、物忘れ（良性加齢性健忘か？本物の認知症か？治療で治る認知症か？）の鑑別を行い、受診当日に担当する脳神経外科専門医/脳神経内科専門医が総合評価について説明を実施している。

② 心臓ドック

冠動脈狭窄に起因する心筋虚血の有無および交感神経優位の状態における危険な不整脈誘発可能性を評価する運動負荷心電図検査、心臓弁の状態および心機能を評価する心臓超音波検査、全身の動脈硬化の状態を評価する頸動脈超音波検査、血管年齢の推定が可能な血圧脈波検査および心臓バイオマーカー血液検査を総合的に評価して、受診当日に循環器専門医が総合評価について説明を実施している。

③ 女性専用フロア設定

人間ドックでは第1金曜日午前・第2土曜日午前を、一般健診では第2土曜日午前・第3金曜日午後を女性受診者のみが受診できる女性専用フロアとして設定しており、ドック結果説明と胃透視・胃カメラ検査を除くすべての検査を女性医師・技師が担当している。

④ 最新の上部内視鏡検査（胃カメラ）システムと胃がん発症リスクに基づく胃透視検査

胃カメラ検査では検査時に胃がん病変を発見することだけでなく、胃がん発症の危険因子であるヘリコバクターピロリ菌感染の有無を胃炎京都分類に従い判断することが重要であるため当センターでは2018年5月より富士フィルムメディカル社の新しい内視鏡システム（[FUJIFILM LASERE07000](#)）と上部消化管用経鼻内視鏡（[EG-L580NW7](#)）を導入した。通常観察の白色光に加えて2種のレーザー光、すなわち粘膜表面の毛細血管の構造を強調するBLI(Blue Laser Imaging)および粘膜表面の赤色領域と周囲のコントラストを強調するLCI(Linked Color Imaging)の3種類の画像を組み合わせることで、より高い精度の診断が可能となっている。

また、上部消化管検診として現在なお重要な役割を果たしている胃透視（バリウム）検査においても、胃がん発症の危険因子であるヘリコバクターピロリ菌感染・除菌歴の有無を反映させた所見および判定結果の提示を行っている。

⑤ 健診誘導支援システムの導入

2019年5月より、受診者の皆様がより快適に健診・検診を受診していただけるよう各検査での待ち時間の短縮を目的として、各検査終了時に待ち時間の少ない次の検査へご案内することを可能とする誘導支援システムを導入した。さらに、当センターは3フロアから構成されており同じ検査を実施する検査室が各フロアに分散するため、検査の待ち時間の短縮と同時にフロア間の移動をできるだけ少なくすることについても配慮されるよう設計され日々進化している。

⑥ 特定保健指導 ICT による遠隔面接導入

コロナ禍においてやむを得ず対面面接を中止する時期があり、受診者および健保からの要望を受け、2021年7月よりICTによる遠隔面接を開始した。受診者の不安なく保健指導を実施できるようになり、現在では、他府県や海外転勤中の受診者とも面接、指導を行なっている。また、健診当日に特定保健指導初回面接実施の契約健保数が増加、当日実施率が全体の67%を占め年々上昇し、受診者の生活習慣改善支援につなげている。

⑦ 施設認定について

- ・ 人間ドック健診施設機能評価認定施設
- ・ 日本総合健診医学会優良総合健診施設
- ・ 健康評価施設査定機構認定施設
- ・ 人間ドック健診専門医制度人間ドック健診研修施設
- ・ 健保連人間ドック指定施設
- ・ 協会けんぽ生活習慣病予防健診実施施設
- ・ 大阪市前立腺がん・乳がん・大腸がん検診実施施設、大阪市前立腺がん・乳がん精密検査精密検査協力医療機関
- ・ 日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設・画像認定施設
- ・ 日本乳癌検診学会 登録認証施設

『スタッフ』

健康管理センター長：根津 理一郎

健康管理センター所長：雨宮 彰

健康管理センター専従・常勤医師：乾 哲也、桑迫 崇裕、前田 健次、藤間 美帆、辻野 晶子、岩本 有里子、江崎 久男、倉敷 有紀子、大野 秀樹、大家 学、池上 陽一、北島 孝一、小林 哲郎（特別顧問）

健康管理センター保健師：田中 登紀子（保健師長）、他 5 名

『診療日程』：すべて予約制（詳細はホームページを参照ください。）

- ・ 人間ドック：月～金曜午前、月～木曜午後、第 2・4 土曜午前
- ・ 一般健診：月～金曜午前・午後、第 2・4 土曜午前/
- ・ 脳ドック：火曜午後
- ・ 心臓ドック：木曜午後

『2022 年度の目標』

新型コロナウイルス感染症が依然蔓延している現在の状況において、健診関連 8 団体から出された「健康診断実施時における新型コロナウイルス感染症対策について」のガイドラインを遵守しながら、これまでどおり受診される皆様に「信頼と納得」いただける健診・検診を「平等」に提供できるよう万全の準備・対策を継続する。そのうえで 2022 年度は総受診者数 71,430 人以上、人間ドック受診者数 14,800 人以上を達成するとともに、受診者の皆様の満足度を反映する指標と考える反復受診率を引き続き 80%以上とするため、皆様に「信頼と納得」を実感していただける健診施設であり続けることを目標とする。

さらに、人気が高く予約が大変取りにくくなっておりご迷惑をおかけしている人間ドック（半日ドック）・上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）の受診枠拡大、そしてより快適な受診環境の実現についても健診フロア改装・増設を含め準備中である。

2. 診療実績

	2020 年度(2020/04－2021/03)	2021 年度(2021/04－2022/03)
人間ドック（半日ドック）	12,697	14,675
人間ドック（1泊ドック）	64	72
一般健診（当日結果説明なし）	49,669	52,139
脳ドック	20	42
心臓ドック	8	27
大阪市がん検診（乳房・大腸）	130	133
子宮がん検診（超音波併用）	11,905	13,695
脳 MRI/MRA	739	935
胸部 CT（低線量肺がん検診）	758	823
マンモグラフィー	6,168	7,788
上部消化管造影（胃透視）	18,160	18,260
上部消化管内視鏡（胃カメラ）	13,378	16,446
心電図検査	59,501	59,568
超音波検査	36,522	40,367
特定保健指導（初回）	308	381

3. 業績

【学会発表】

2020 年度：

高島周志ほか：胃がん検診受診の推奨層を考察～当センターのドック受診者を年代別、ヘリコバクターピロリ菌感染別に検討～：第 61 回日本人間ドック学会学術大会；2020 年 11 月 26-12 月 26 日；Web 開催

医事課

1. 概要

【部署の方針と特徴】

患者様が安心して当院をご利用いただけるよう、愛情と尊敬をもって接し、常日頃から信頼されるよう最良な対応を心掛ける。また自己研鑽に努め、グループ・組織へ貢献できるよう常に意識する。

【スタッフ】

医事課長 1名 ・ 医事課係長 1名 ・

医事課職員 21名（入院・外来・1～4階受付・地域医療連携室・入退院受付）

【2022年の目標】

医事課の安定（課員の定着率向上・業務の画一化・時間外勤務の削減）

2022年度診療報酬改定の対応（取得基準項目の維持・上位取得・迅速な変更手続き等）

減点改善策実施

2. 各科別患者数

単位：人

		2021年度												合計
		内科	消化器内科	循環器内科	内科3科計	外科	整形外科	皮膚・形成外科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	
4月	入院	88	72	493	653	624	428	27	151	203	79	9		2,174
	外来	1,065	653	1,930	3,648	1,343	640	368	858	547	632	232	12	8,280
	合計	1,153	725	2,423	4,301	1,967	1,068	395	1,009	750	711	241	12	10,454
5月	入院	68	75	378	521	560	484	40	158	178	80	10		2,031
	外来	905	548	1,584	3,037	1,129	521	297	750	424	489	202	6	6,855
	合計	973	623	1,962	3,558	1,689	1,005	337	908	602	569	212	6	8,886
6月	入院	127	62	507	696	634	640	52	164	179	46	21		2,432
	外来	1,076	615	1,899	3,590	1,378	702	395	917	552	631	278	10	8,453
	合計	1,203	677	2,406	4,286	2,012	1,342	447	1,081	731	677	299	10	10,885
7月	入院	77	28	529	634	565	603	39	144	192	118	5		2,300
	外来	1,082	576	1,817	3,475	1,339	572	343	830	460	591	247	10	7,867
	合計	1,159	604	2,346	4,109	1,904	1,175	382	974	652	709	252	10	10,167
8月	入院	111	52	282	445	632	604	22	173	225	112	9		2,222
	外来	1,055	580	1,737	3,372	1,324	631	384	865	560	601	241	21	7,999
	合計	1,166	632	2,019	3,817	1,956	1,235	406	1,038	785	713	250	21	10,221
9月	入院	81	39	364	484	551	626	44	160	153	56	5		2,079
	外来	1,106	568	1,729	3,403	1,375	626	380	910	513	605	257	37	8,106
	合計	1,187	607	2,093	3,887	1,926	1,252	424	1,070	666	661	262	37	10,185
10月	入院	87	36	458	581	566	587	40	191	214	77	9		2,265
	外来	1,215	609	1,875	3,699	1,465	676	414	987	560	623	252	37	8,713
	合計	1,302	645	2,333	4,280	2,031	1,263	454	1,178	774	700	261	37	10,978
11月	入院	141	50	446	637	562	592	57	168	207	122	18		2,363
	外来	1,120	651	1,702	3,473	1,348	658	419	885	530	618	248	30	8,209
	合計	1,261	701	2,148	4,110	1,910	1,250	476	1,053	737	740	266	30	10,572
12月	入院	120	59	415	594	675	572	46	137	200	104	23		2,351
	外来	1,263	552	1,873	3,688	1,456	665	392	928	545	614	266	43	8,597
	合計	1,383	611	2,288	4,282	2,131	1,237	438	1,065	745	718	289	43	10,948
1月	入院	84	59	334	477	640	536	33	148	182	94	14		2,124
	外来	1,085	490	1,733	3,308	1,254	573	362	804	465	523	251	45	7,585
	合計	1,169	549	2,067	3,785	1,894	1,109	395	952	647	617	265	45	9,709
2月	入院	86	43	495	624	672	636	48	139	180	78	8		2,385
	外来	1,059	508	1,550	3,117	1,182	523	318	777	483	527	230	22	7,179
	合計	1,145	551	2,045	3,741	1,854	1,159	366	916	663	605	238	22	9,564
3月	入院	127	46	539	712	690	666	77	167	202	118	24		2,656
	外来	1,257	583	1,881	3,721	1,505	688	415	1,007	601	697	311	23	8,968
	合計	1,384	629	2,420	4,433	2,195	1,354	492	1,174	803	815	335	23	11,624
合計	入院	1,197	621	5,240	7,058	7,371	6,974	525	1,900	2,315	1,084	155		27,382
	外来	13,288	6,933	21,310	41,531	16,098	7,475	4,487	10,518	6,240	7,151	3,015	296	96,811
	合計	14,485	7,554	26,550	48,589	23,469	14,449	5,012	12,418	8,555	8,235	3,170	296	124,193
構成比	入院	4.4%	2.3%	19.1%	25.8%	26.9%	25.5%	1.9%	6.9%	8.5%	4.0%	0.6%		100.0%
	外来	13.7%	7.2%	22.0%	42.9%	16.6%	7.7%	4.6%	10.9%	6.4%	7.4%	3.1%	0.3%	100.0%
	合計	11.7%	6.1%	21.4%	39.1%	18.9%	11.6%	4.0%	10.0%	6.9%	6.6%	2.6%	0.2%	100.0%

3. 各科別平均在院日数

単位：日

2021年度	内科	消化器内科	循環器内科	内科3科計	外科	整形外科	皮膚・形成外科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
4月	16.6	1.2	3.6	3.5	3.6	17.2	2.1	5.8	6.0	2.5	3.5	4.6
5月	16.0	1.9	3.3	3.4	3.6	20.7	3.9	7.0	5.6	3.1	4.0	5.0
6月	35.4	1.2	4.0	4.2	4.4	24.6	3.3	5.4	5.5	2.5	4.3	5.8
7月	16.0	1.3	4.0	4.2	3.6	24.6	3.2	3.8	5.6	3.1	1.5	5.3
8月	13.0	1.2	2.2	2.7	4.0	22.8	1.8	3.8	6.0	3.8	3.5	5.0
9月	14.8	1.0	2.8	3.0	3.2	21.7	2.3	4.0	5.4	4.1	4.0	4.8
10月	12.5	1.0	3.4	3.6	3.5	18.3	1.9	5.4	5.6	2.4	5.3	4.9
11月	15.9	1.4	3.9	4.3	3.4	16.4	4.1	4.2	6.2	3.4	10.7	5.2
12月	10.7	1.8	3.2	3.6	3.5	19.0	2.9	3.2	5.6	3.2	3.6	4.7
1月	13.5	1.6	2.8	3.1	3.9	22.0	3.5	4.2	5.6	2.6	3.7	4.8
2月	14.4	1.4	4.6	4.6	4.7	20.9	3.8	6.0	5.4	2.4	3.0	6.0
3月	22.4	1.1	4.7	4.9	3.8	20.5	8.6	4.0	4.9	3.9	5.0	5.7
合計	15.7	1.4	3.6	3.7	3.8	20.5	3.3	4.6	5.6	3.1	4.2	5.1

4. 各科別診療収入

単位：点

入院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	構成比	前年度計	前年対比
内科	303,254	227,154	429,279	261,660	393,974	267,204	316,397	495,937	418,178	294,512	303,865	427,161	4,138,575	1.8%	4,123,963	100.4%
消化器内科	594,092	429,037	410,312	172,839	398,221	254,899	303,666	352,931	331,380	397,341	276,294	282,338	4,203,340	1.8%	10,120,840	41.5%
循環器内科	5,984,347	4,771,874	5,751,548	6,544,093	3,933,449	5,606,280	6,245,664	5,456,342	5,924,103	5,174,636	5,222,925	5,862,143	66,477,404	28.8%	72,962,462	91.1%
内科3科計	6,881,693	5,428,065	6,591,139	6,978,592	4,725,644	6,128,383	6,865,727	6,305,210	6,673,661	5,866,489	5,803,074	6,571,642	74,819,319	32.4%	87,207,265	85.8%
外科	3,780,328	3,443,388	3,913,072	3,459,483	3,520,542	3,233,807	3,395,492	3,602,358	3,827,318	3,775,042	3,683,793	3,914,638	43,549,261	18.8%	44,913,748	97.0%
整形外科	3,403,766	3,788,169	4,392,845	4,287,804	4,842,564	4,379,973	4,413,891	4,748,740	4,772,187	4,111,484	4,567,139	4,973,076	52,681,638	22.8%	36,873,711	142.9%
皮膚・形成外科	203,884	195,076	271,019	223,450	162,499	286,104	286,589	334,940	276,882	224,714	254,642	406,285	3,126,084	1.4%	3,470,531	90.1%
泌尿器科	1,109,670	1,011,721	1,580,916	1,297,491	1,782,029	1,526,391	1,478,034	1,737,818	1,088,233	1,383,811	1,195,066	1,589,158	16,780,338	7.3%	17,581,924	95.4%
婦人科	2,405,466	2,014,735	2,086,063	2,336,345	2,656,488	1,919,621	2,543,138	2,414,709	2,340,331	2,282,130	2,203,155	2,596,649	27,798,830	12.0%	47,376,587	58.7%
眼科	681,639	713,662	658,993	1,074,725	1,086,016	431,266	756,417	1,062,356	1,027,633	919,619	843,774	1,080,027	10,336,127	4.3%	12,385,301	83.5%
耳鼻咽喉科	181,550	141,204	218,998	23,262	180,548	91,953	174,504	130,662	209,657	195,046	176,774	222,136	1,946,294	0.8%	1,569,596	124.0%
合計	18,647,996	16,736,020	19,713,045	19,681,152	18,956,330	17,997,498	19,913,792	20,336,793	20,215,902	18,758,335	18,727,417	21,353,611	231,037,891	100.0%	251,378,663	91.9%
外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	構成比	前年度計	前年対比
内科	1,386,564	1,086,971	1,381,672	1,393,183	1,350,228	1,363,942	1,548,557	1,386,175	1,494,185	1,362,980	1,330,126	1,524,264	16,608,847	14.7%	16,711,649	99.4%
消化器内科	982,863	715,688	1,064,106	642,005	963,697	1,038,010	806,542	914,684	941,850	795,425	826,016	833,204	10,524,090	9.3%	14,665,704	71.8%
循環器内科	2,946,711	2,384,041	2,977,284	2,800,869	2,691,339	2,693,048	3,016,892	2,835,937	2,891,949	2,690,949	2,482,584	3,040,047	33,451,650	29.6%	35,825,375	93.4%
内科3科計	5,316,138	4,186,700	5,423,062	4,836,057	5,005,264	5,095,000	5,371,991	5,136,796	5,327,984	4,849,354	4,638,726	5,397,515	60,584,587	53.6%	67,202,728	90.2%
外科	1,248,528	1,036,883	1,349,077	1,193,877	1,157,769	1,267,428	1,435,667	1,152,717	1,387,865	1,307,897	1,087,709	1,538,154	15,163,571	13.4%	15,235,009	99.5%
整形外科	700,321	634,571	758,118	617,450	707,991	747,438	692,354	736,698	829,723	713,295	606,585	862,827	8,607,371	7.6%	6,757,761	127.4%
皮膚・形成外科	243,335	139,784	183,768	151,897	215,813	188,272	197,341	200,534	174,426	168,753	125,985	184,984	2,174,892	1.9%	3,426,406	63.5%
泌尿器科	801,961	743,472	881,647	824,292	904,590	914,316	944,291	889,877	883,228	786,486	714,644	958,257	10,247,061	9.1%	10,787,855	95.0%
婦人科	419,160	328,061	451,674	358,551	449,627	393,244	440,445	381,723	413,779	387,794	396,596	471,742	4,892,396	4.3%	6,049,715	80.9%
眼科	792,508	506,632	671,960	670,048	759,398	583,527	710,669	728,946	629,342	624,057	743,966	841,135	8,262,188	7.3%	8,731,880	94.6%
耳鼻咽喉科	251,907	226,433	264,467	218,094	211,388	263,037	239,803	222,079	209,489	228,842	189,542	324,004	2,849,085	2.5%	2,336,523	121.9%
放射線科	16,323	10,389	26,566	17,740	10,437	20,640	22,560	1,948	12,545	7,135	6,594	18,140	171,017	0.2%	80,577	212.2%
合計	9,790,181	7,812,925	10,010,339	8,888,006	9,422,277	9,472,902	10,055,121	9,451,318	9,868,381	9,073,613	8,510,347	10,596,758	112,952,168	100.0%	120,608,454	93.7%
総合計	28,438,177	24,548,945	29,723,384	28,569,158	28,378,607	27,470,400	29,968,913	29,788,111	30,084,283	27,831,948	27,237,764	31,950,369	343,990,059		371,987,117	92.5%

病院年報 第2号
令和4年6月発行

発行 医療法人伯鳳会 大阪中央病院

編集 病院年報委員会

〒 530-0001 大阪府大阪市北区梅田3丁目3番30号

TEL 06-4795-5505

FAX 06-4795-5544

URL <http://www.osaka-centralhp.jp/>

